

鶴岡市の地域医療に関するアンケート調査

【調査報告書】

令和5年（2023年）7月

鶴岡市

内容

I. 調査概要	2
1. 調査の目的.....	2
2. 調査の概要.....	2
3. 報告書の見方.....	2
II. 調査結果	3
1. 回答者ご自身のことについて	3
2. 日常の受診について	7
3. 地域医療の理解と普及について.....	15
4. 在宅医療・人生会議の理解と普及について.....	19
5. 鶴岡市の医療について	24
6. 地域医療における荘内病院について	31
7. その他.....	32
III. 調査結果からみた課題	36
1. 日常の受診について	36
2. 地域医療の理解と普及について.....	37
3. 在宅医療・人生会議について	37
4. 鶴岡市の医療について	38
5. 地域医療における荘内病院について	39
6. その他.....	40
IV. 資料	40

I. 調査概要

1. 調査の目的

鶴岡市の医療を取り巻く状況は複数の課題があり、より一層厳しさを増しています。市民の地域医療に対する意識や満足度、課題の変化を把握し、その結果を地域医療連携に関する市の施策に活用していくとともに、市民勉強会の新たな展開に向けたニーズ把握や市民アクションプランの評価にも活かすことを目的とします。

2. 調査の概要

調査対象者	鶴岡市に在住する 18 歳（R5.1.1 現在）以上の方
配布数	10,000 人
抽出方法	住民基本台帳を母集団とした無作為抽出
調査方法	郵送配布 郵送回収または、WEB による回答のいずれかを選択
回収数	5,019 人
回収率	50.19%
調査期間	令和 5 年（2023 年）2 月 6 日～令和 5 年（2023 年）2 月 20 日

3. 報告書の見方

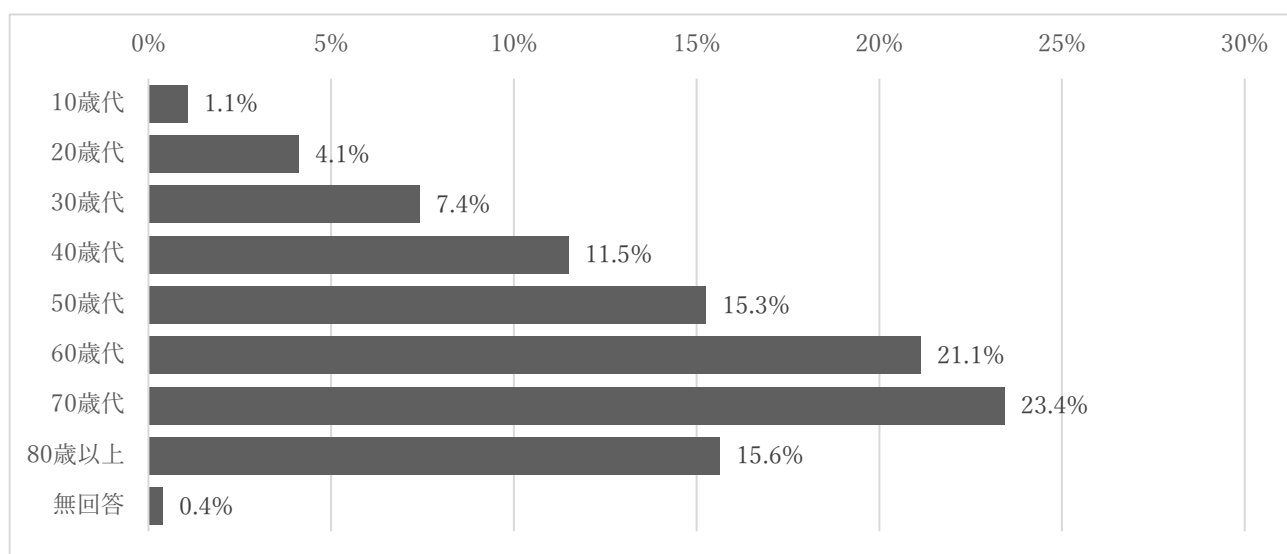
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第 2 位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。このことは、報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていないまたは回答の判断が困難なものです。
- 本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。

II. 調査結果

1. 回答者ご自身のことについて

問1 あなたの年齢を教えてください。

【図1 年齢】

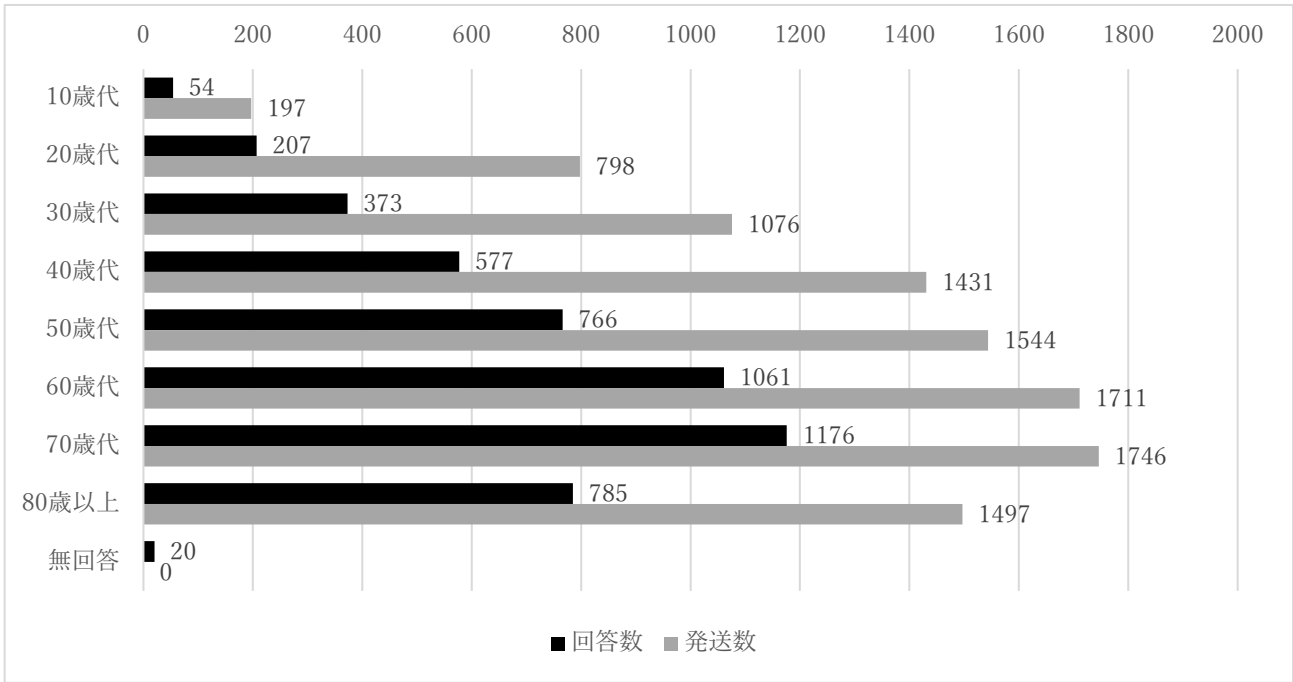


年齢についてみると、「70歳代」が23.4%と最も高く、次いで「60歳代」が21.1%、「80歳以上」が15.6%となっています。60歳代以上で60.1%と、50歳代以下の39.4%と比べ20.7%高くなっています。

【図1-1 年齢別発送数と回答割合】

年齢	発送数（人）	回答数（人）	年齢別回答率	全体回答率
10歳代	197	54	27.4%	1.1%
20歳代	798	207	25.9%	4.1%
30歳代	1076	373	34.7%	7.4%
40歳代	1431	577	40.3%	11.5%
50歳代	1544	766	49.6%	15.3%
60歳代	1711	1061	62.0%	21.1%
70歳代	1746	1176	67.4%	23.4%
80歳以上	1497	785	52.4%	15.6%
無回答		20		0.4%

【図 1-2 年齢（発送数と回答者数グラフ）】



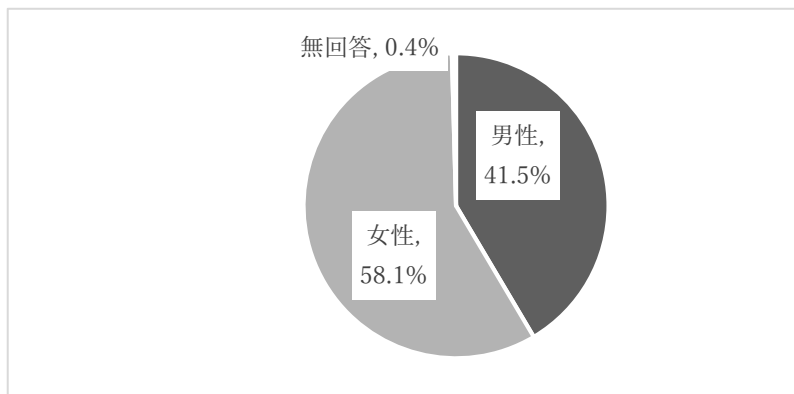
アンケート調査票の発送数と回答者数を年齢別にみると、70歳代が1176人と最も多く、10歳代が54人、20歳代が207人と、若い世代の回答者数が少なくなっています。

回答率を年齢別にみても、「70歳代」が67.4%と最も高く、次いで「60歳代」が62.0%の割合になっています。最も低い年齢は、「20歳代」の25.9%でした。

回答者全体を年齢別で見ると、「70歳代」が23.4%と最も高く、次いで「60歳代」が21.1%の割合になっています。最も低い年齢は「20歳代」の4.1%でした。自分や身近な人の健康や病気などにより、医療に対する意識が高まる世代からの回答が多くなっています。

問2 あなたの性別を教えてください。

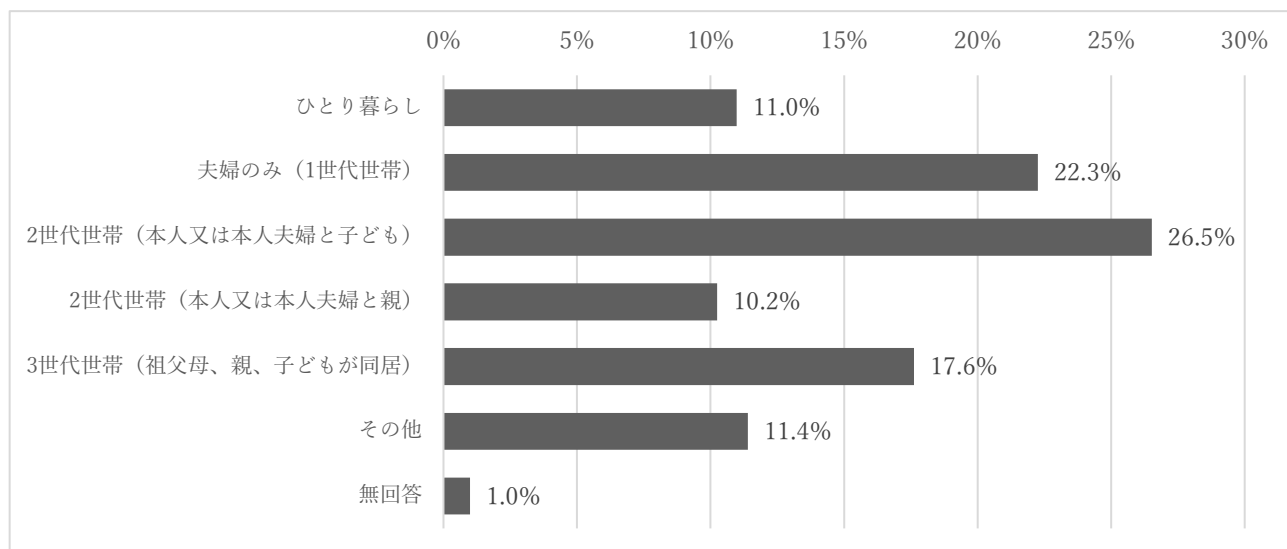
【図 2 性別】



性別についてみると「男性」が41.5%、「女性」が58.1%となっています。

問3 あなたの世帯構成を教えてください。(1つを選択)

【図3 世帯構成】



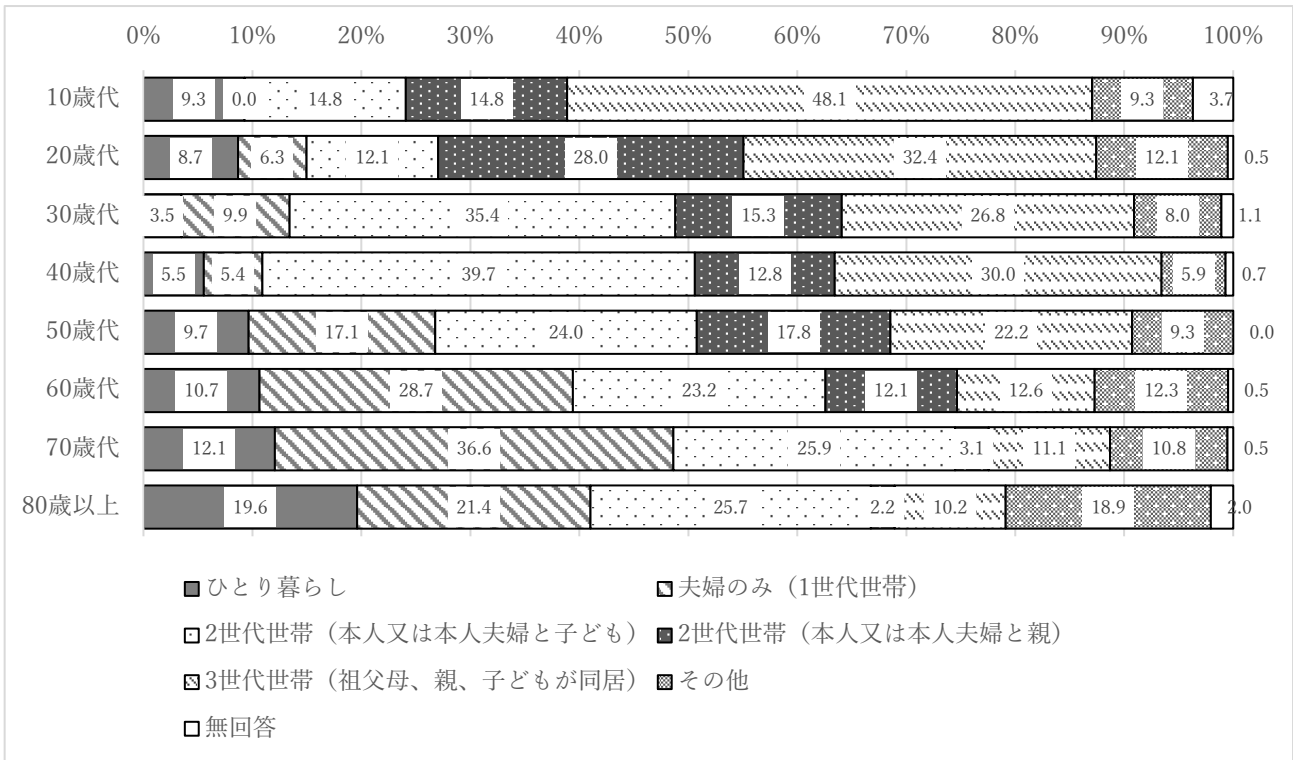
世帯構成についてみると、「2世代世帯 (本人又は本人夫婦と子ども)」が26.5%と最も高く、次いで「夫婦のみ (1世代世帯)」が22.3%、「3世代世帯 (祖父母、親、子供が同居)」が17.6%となっています。

【図3-1 世帯構成 (年齢別)】※上位3項目を掲載

	1位	2位	3位
10歳代 (N=54)	3世代世帯 (祖父母、親、子どもが同居) 48.1%	2世代世帯 (本人又は本人夫婦と子ども) 14.8%	2世代世帯 (本人又は本人夫婦と親) 14.8%
20歳代 (N=207)	3世代世帯 (祖父母、親、子どもが同居) 32.4%	2世代世帯 (本人又は本人夫婦と親) 28.0%	2世代世帯 (本人又は本人夫婦と子ども) 12.1%
30歳代 (N=373)	2世代世帯 (本人又は本人夫婦と子ども) 35.4%	3世代世帯 (祖父母、親、子どもが同居) 26.8%	2世代世帯 (本人又は本人夫婦と親) 15.3%
40歳代 (N=577)	2世代世帯 (本人又は本人夫婦と子ども) 39.7%	3世代世帯 (祖父母、親、子どもが同居) 30.0%	2世代世帯 (本人又は本人夫婦と親) 12.8%
50歳代 (N=766)	2世代世帯 (本人又は本人夫婦と子ども) 24.0%	3世代世帯 (祖父母、親、子どもが同居) 22.2%	2世代世帯 (本人又は本人夫婦と親) 17.8%
60歳代 (N=1061)	夫婦のみ (1世代世帯) 28.7%	2世代世帯 (本人又は本人夫婦と子ども) 23.2%	3世代世帯 (祖父母、親、子どもが同居) 12.6%
70歳代 (N=1176)	夫婦のみ (1世代世帯) 36.6%	2世代世帯 (本人又は本人夫婦と子ども) 25.9%	ひとり暮らし 12.1%
80歳以上 (N=785)	2世代世帯 (本人又は本人夫婦と子ども) 25.7%	夫婦のみ (1世代世帯) 21.4%	ひとり暮らし 19.6%

世帯構成について年齢別にみると、「夫婦のみ (1世代世帯)」は60歳代、70歳代で割合が高くなっています。また、70歳代と80歳以上では「ひとり暮らし」が3位に入ってきます。

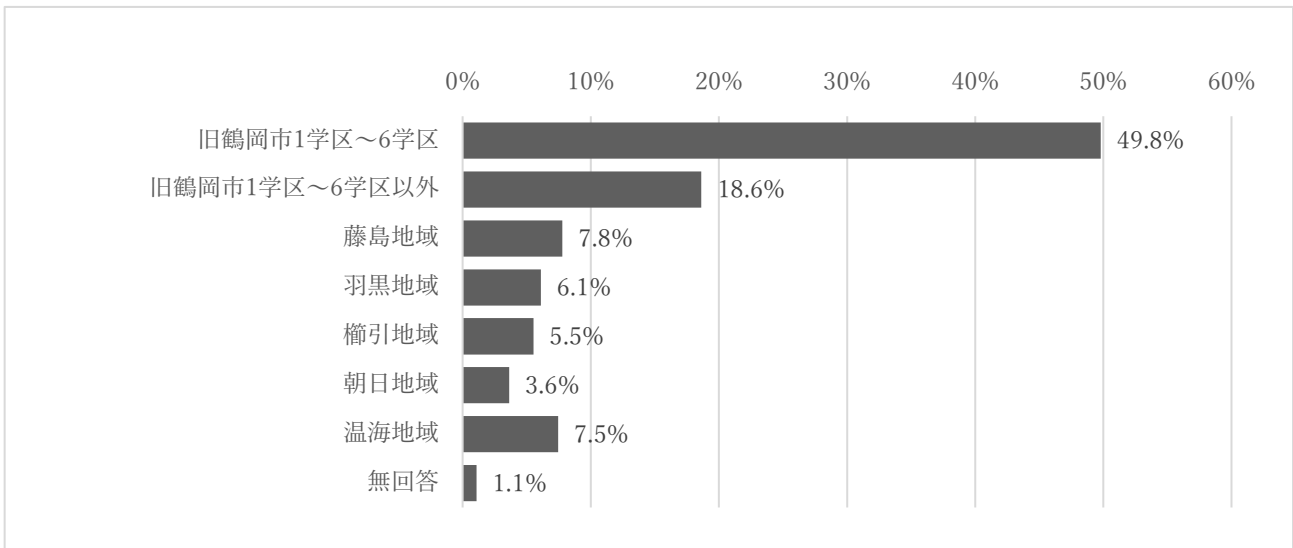
【図 3-2 世帯構成（年齢別グラフ）】



世帯構成について、年齢別にみると、「ひとり暮らし」の割合は80歳以上が最も高くなっています。

問 4 あなたは現在、どの地域にお住まいですか。（1つを選択）

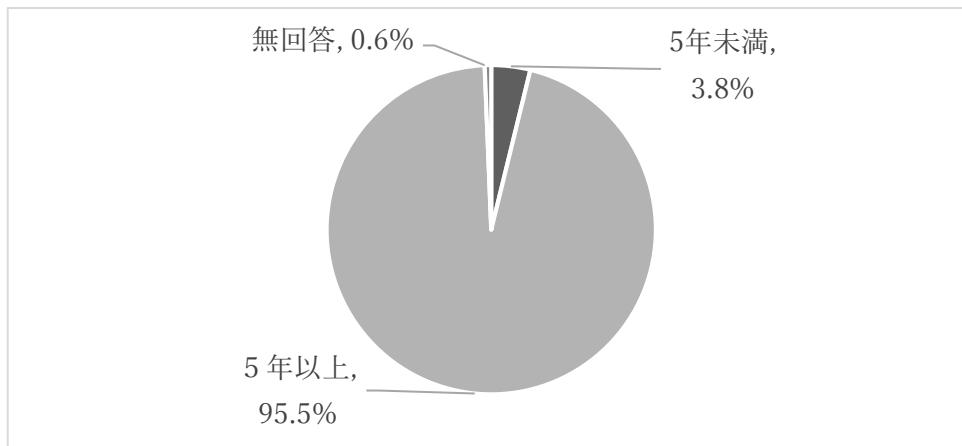
【図 4 居住地】



居住地についてみると、「旧鶴岡市1学区～6学区」が49.8%と最も高く、次いで「旧鶴岡市1学区～6学区以外」が18.6%、「藤島地域」が7.8%となっています。

問5 あなたは鶴岡市に何年、お住まいでしょうか。(1つを選択)

【図5 居住年数】

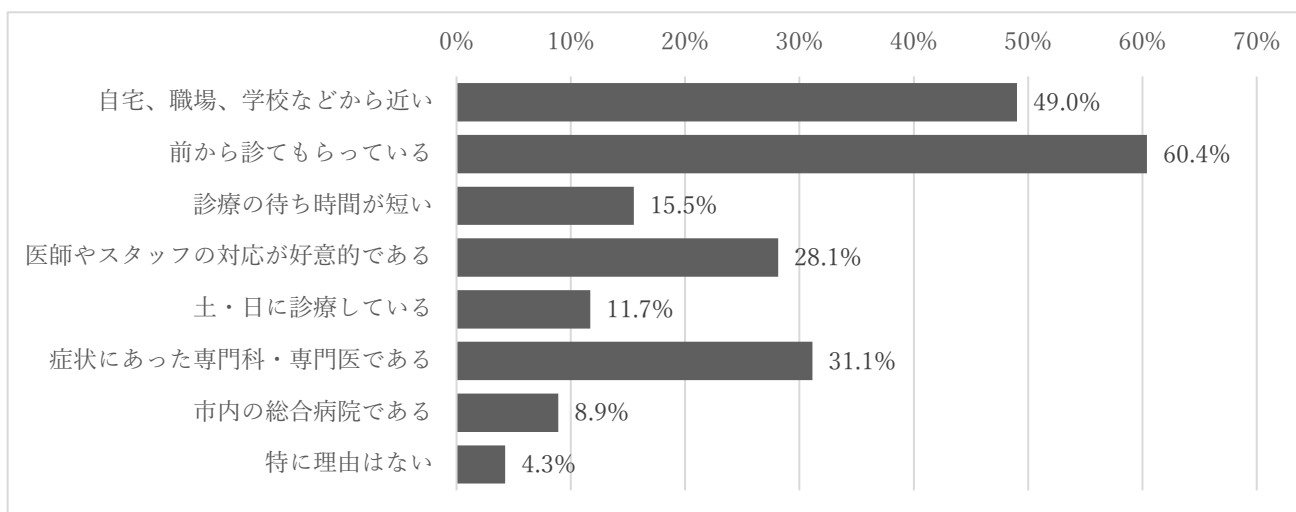


居住年数についてしてみると、「5年以上」が95.5%、「5年未満」が3.8%となっています。

2. 日常の受診について

問6 あなたが、風邪やけが、体調不良などの時に受診する場合、医療機関を選ぶ(選んだ)ポイントを教えてください。(あてはまるものすべてを選択)

【図6 医療機関を選ぶポイント】



受診の際に医療機関を選ぶポイントについてしてみると、「前から診てもらっている」が60.4%と最も高く、次いで「自宅、職場、学校などから近い」が49.0%、「病状にあった専門家・専門医である」が31.1%となっています。

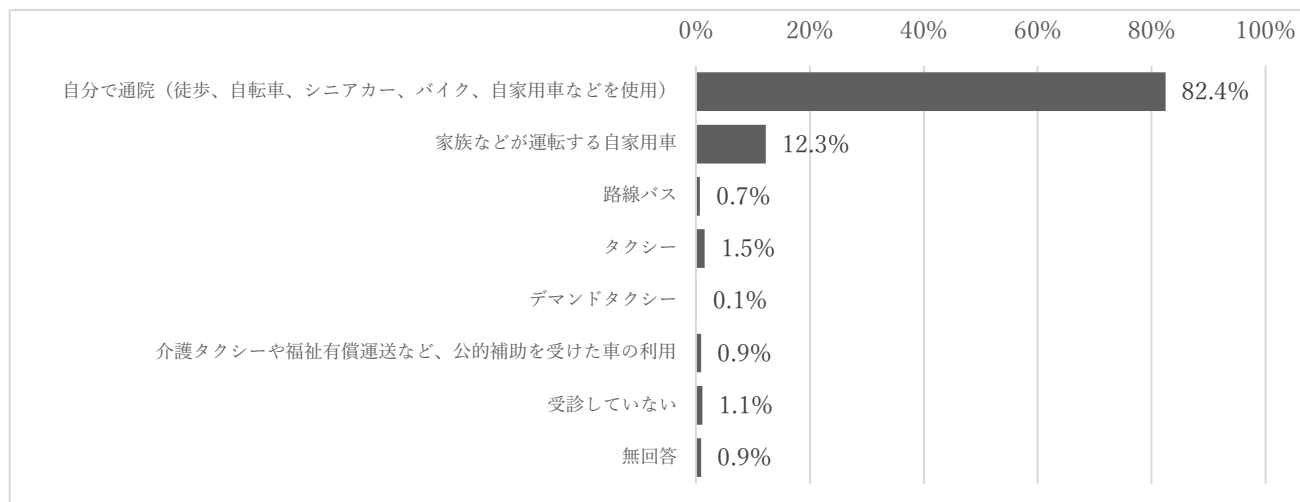
【図 6-1 医療機関を選ぶポイント（年齢別）】※上位 3 項目を掲載

	第 1 位	第 2 位	第 3 位
10 歳代 (N=101)	前から診てもらっている 37.6%	自宅、職場、学校などから近い 22.8%	症状にあった専門科・専門医である 10.9%
20 歳代 (N=429)	自宅、職場、学校などから近い 29.4%	前から診てもらっている 25.6%	症状にあった専門科・専門医である 13.3%
30 歳代 (N=915)	自宅、職場、学校などから近い 25.7%	前から診てもらっている 21.3%	医師やスタッフの対応が好意的である 16.6%
40 歳代 (N=1403)	自宅、職場、学校などから近い 26.5%	前から診てもらっている 23.2%	医師やスタッフの対応が好意的である 16.0%
50 歳代 (N=1756)	自宅、職場、学校などから近い 25.9%	前から診てもらっている 24.4%	症状にあった専門科・専門医である 15.1%
60 歳代 (N=2120)	前から診てもらっている 31.3%	自宅、職場、学校などから近い 24.1%	症状にあった専門科・専門医である 15.0%
70 歳代 (N=2335)	前から診てもらっている 35.3%	自宅、職場、学校などから近い 19.9%	症状にあった専門科・専門医である 15.0%
80 歳以上 (N=1423)	前から診てもらっている 36.4%	自宅、職場、学校などから近い 19.9%	症状にあった専門科・専門医である 15.0%

医療機関を選ぶポイントについて、年齢別にみると、10 歳代および 60 歳代以上では、「前から診てもらっている」の割合が、20 歳代から 50 歳代までは、「自宅、職場、学校などから近い」の割合が高くなっています。30 歳代、40 歳代の 3 位に他の年齢層の上位 3 位に入っていない「医師やスタッフの対応が好意的である」があります。

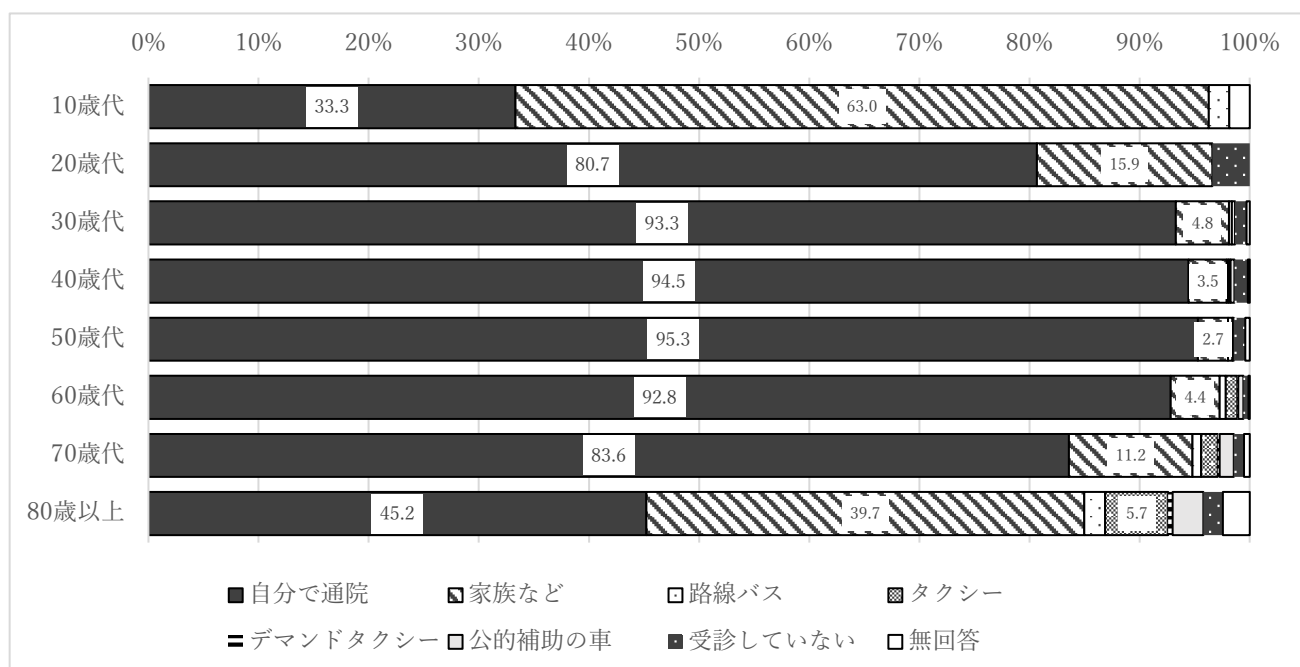
問7 あなたの、医療機関への主な通院手段を教えてください。(1つを選択)

【図7 通院手段】



医療機関への主な通院手段についてみると、「自分で通院 (徒歩、自転車、シニアカー、バイク、自家用車などを使用)」が82.4%と最も高く、次いで「家族などが運転する自家用車」が12.3%、「タクシー」が1.5%となっています。

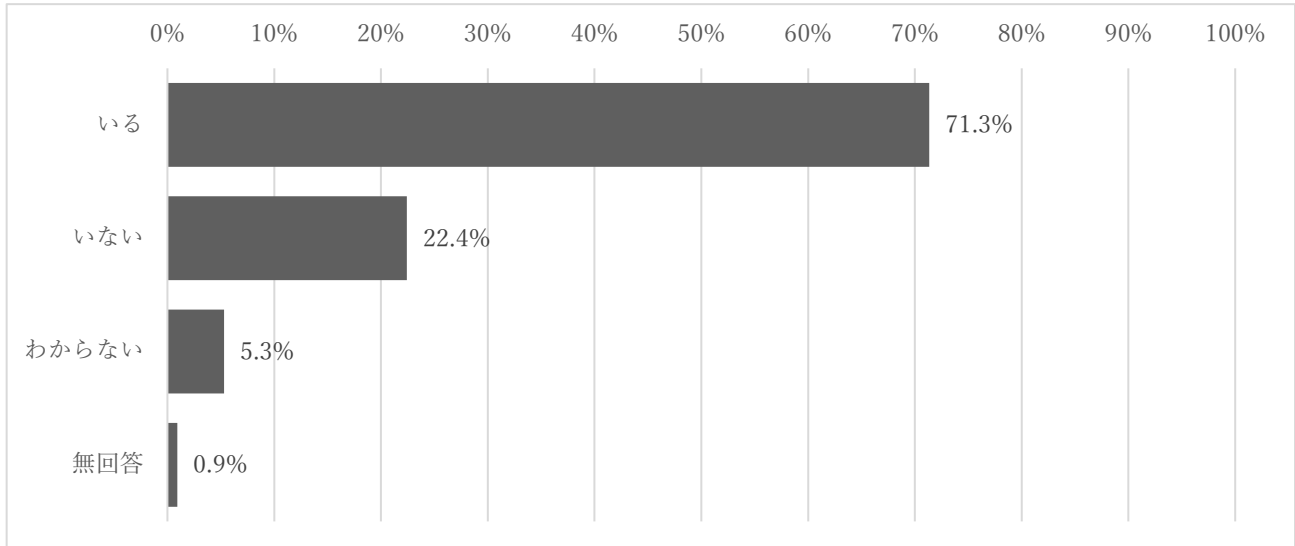
【図7-1 交通手段 (年齢別)】



年齢別に交通手段を見ると、10歳代で63.0%、80歳以上で39.7%と、「家族などが運転する自家用車」の割合が高くなっています。80歳以上では、「タクシー」の割合が他の年齢と比べ5.7%と高い割合になっています。

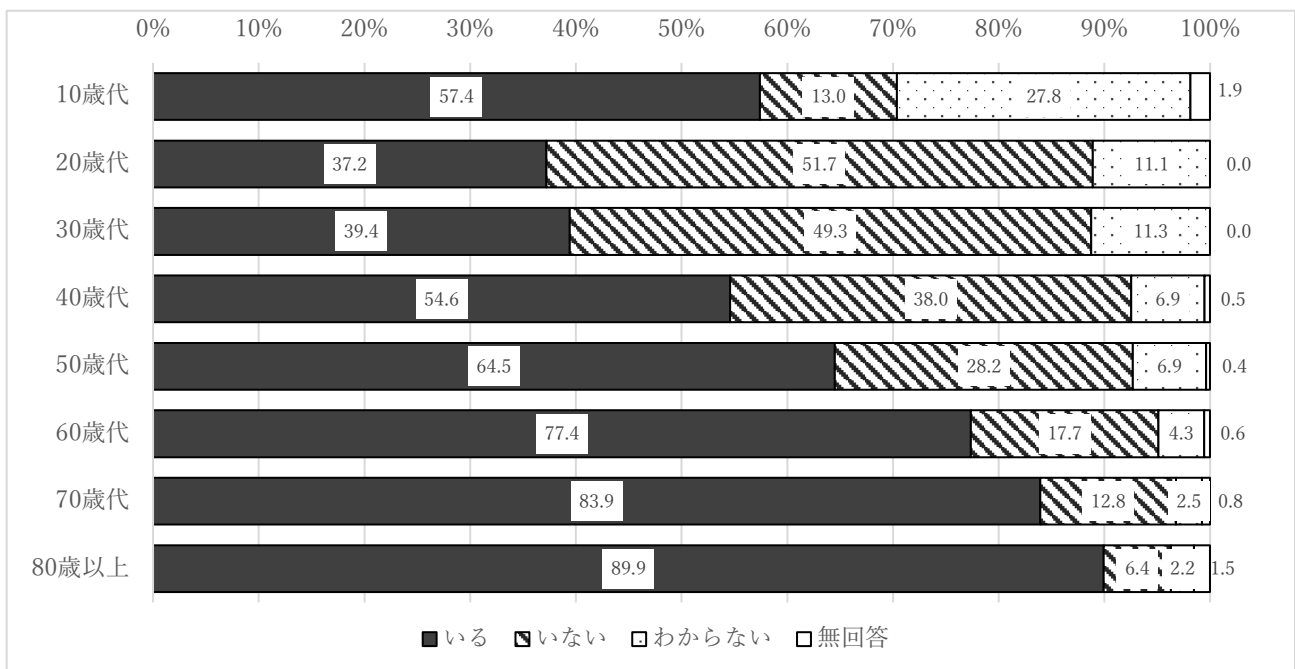
問8 あなたはかかりつけ医がいますか。(1つを選択)

【図8 かかりつけ医の有無】



かかりつけ医がいるかについてみると、「いる」が71.3%、「いない」が22.4%、「わからない」が5.3%となっています。

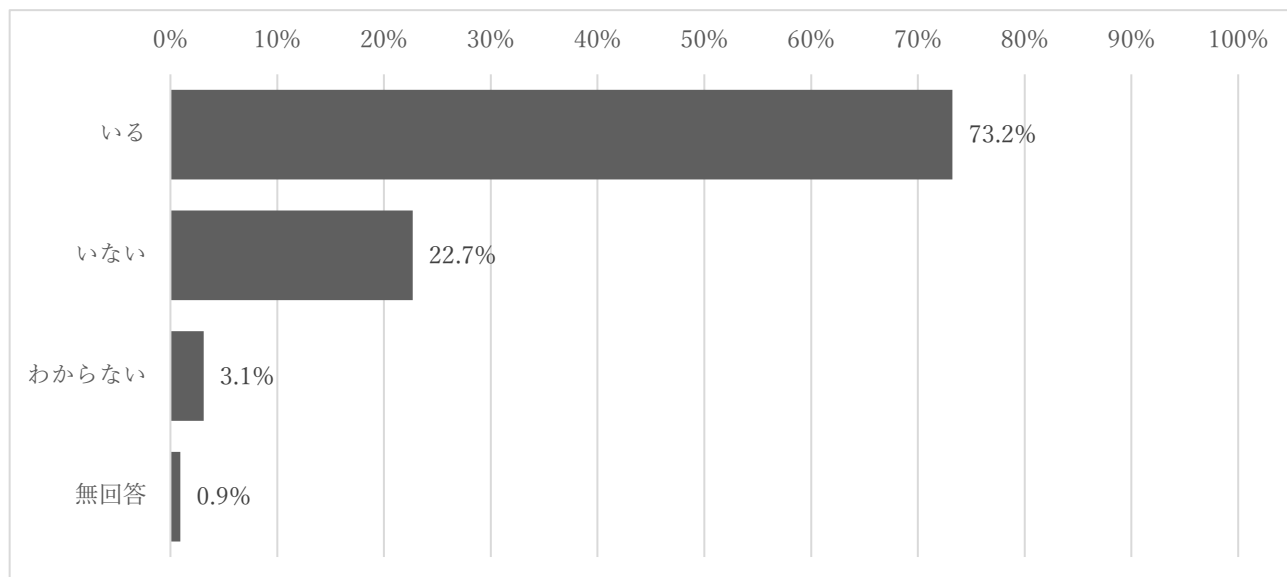
【図8-1 かかりつけ医の有無（年齢別）】



かかりつけ医の有無について年齢別で見ると、年齢が上がるにつれ、かかりつけ医がいる割合が高くなっており、80歳以上で89.9%と最も高くなっています。また、10歳代で57.4%となっています。

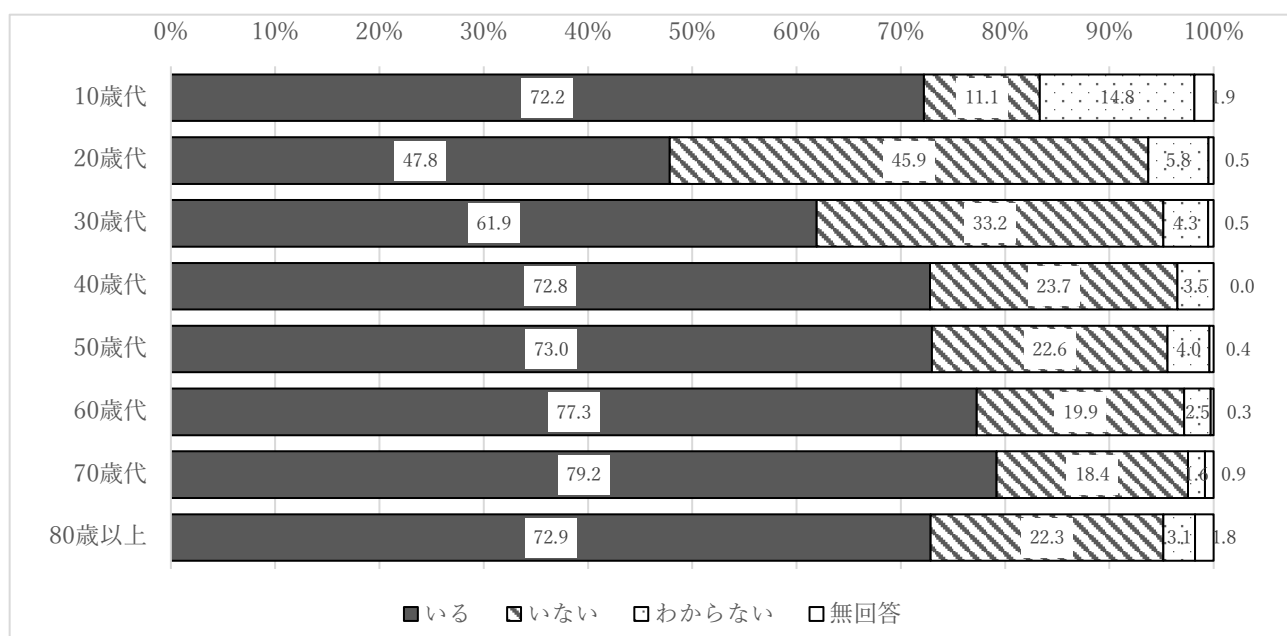
問9 あなたには、かかりつけ歯科医がいますか。(1つを選択)

【図9 かかりつけ歯科医の有無】



かかりつけ歯科医がいるかについてみると、「いる」が73.2%、「いない」が22.7%、「わからない」が3.1%となっています。

【図9-1 かかりつけ歯科医の有無（年齢別）】

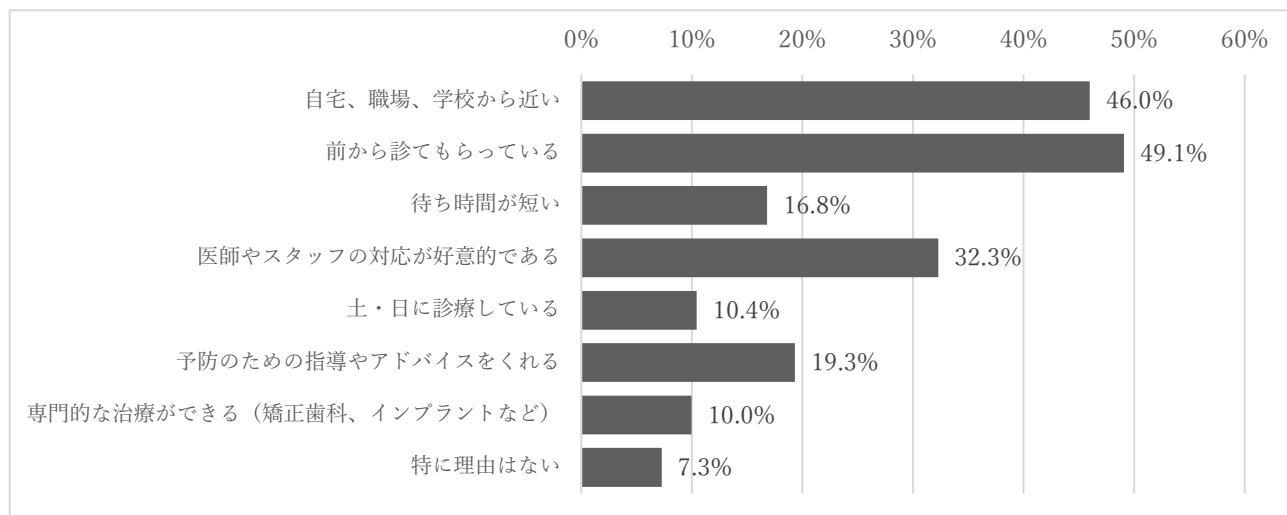


かかりつけ歯科医の有無について年齢別でみると、「かかりつけ歯科医がいる」が70歳代で79.2%と最も高くなっています。もっとも低いのは、20歳代で47.8%となっています。

問 10 あなたが歯科を受診する場合、歯科医院を選ぶ（選んだ）ポイントを教えてください。

（あてはまるものすべてを選択）

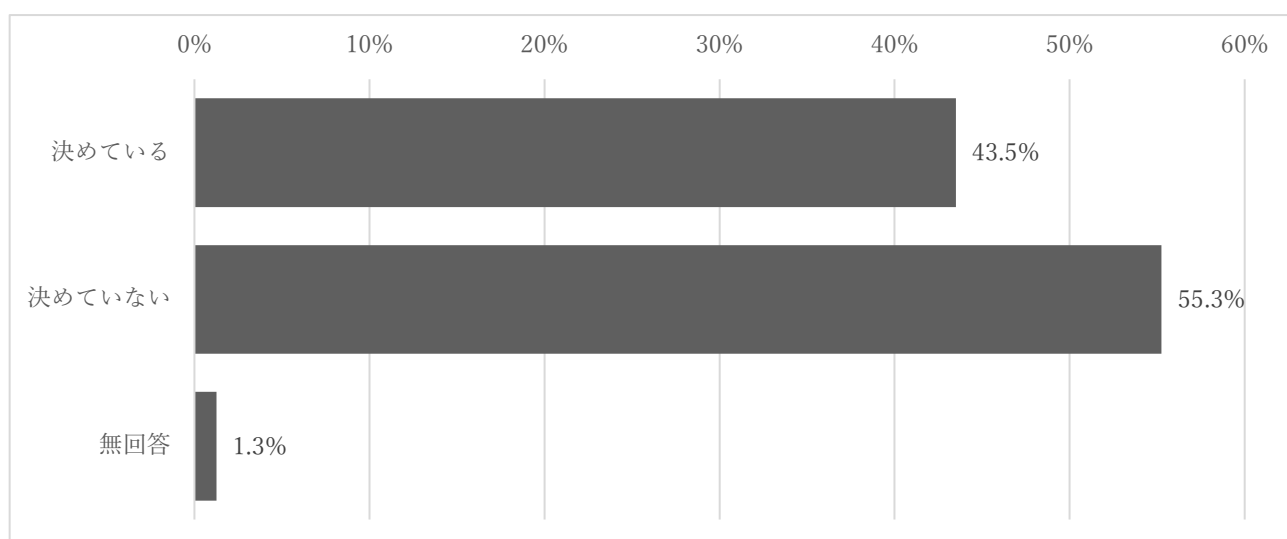
【図 10 歯科医院を選ぶポイント】



歯科医院を選ぶポイントについてしてみると、「前から診てもらっている」が 49.1%と最も高く、次いで「自宅、職場、学校から近い」が 46.0%となっています。

問 11 あなたは、かかりつけ薬局（1 か所）を決めていますか。（1つを選択）

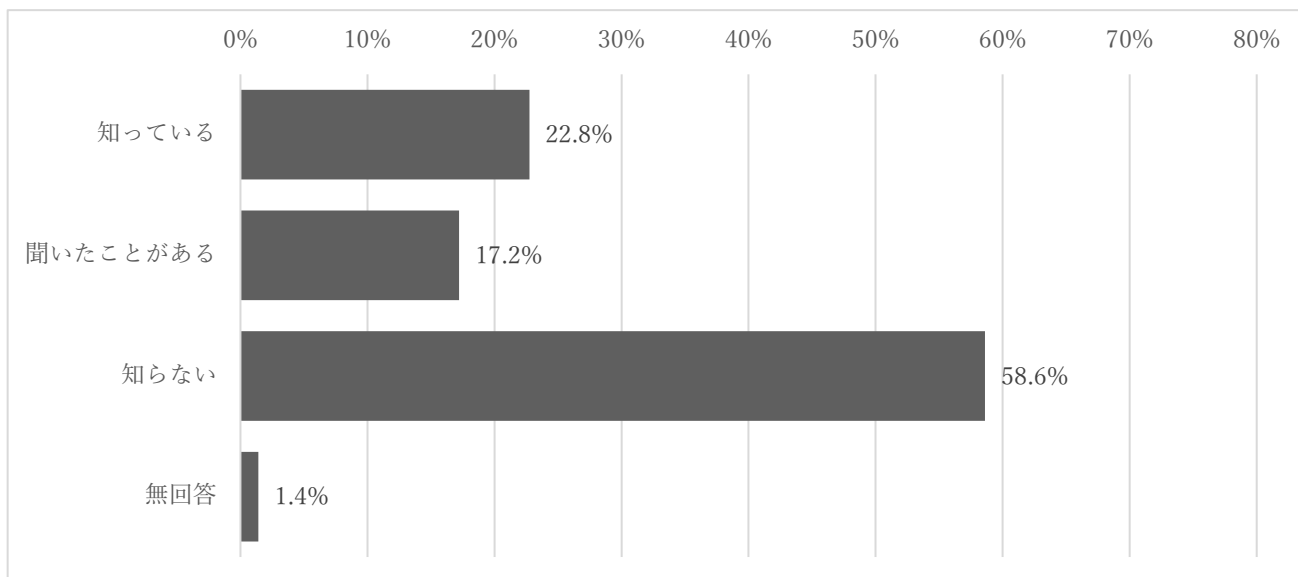
【図 11 かかりつけ薬局の有無】



かかりつけ薬局の有無についてしてみると、「決めている」が 43.5%、「決めていない」が 55.3%となっています。

問 12 あなたは、かかりつけ薬剤師について知っていますか。(1つを選択)

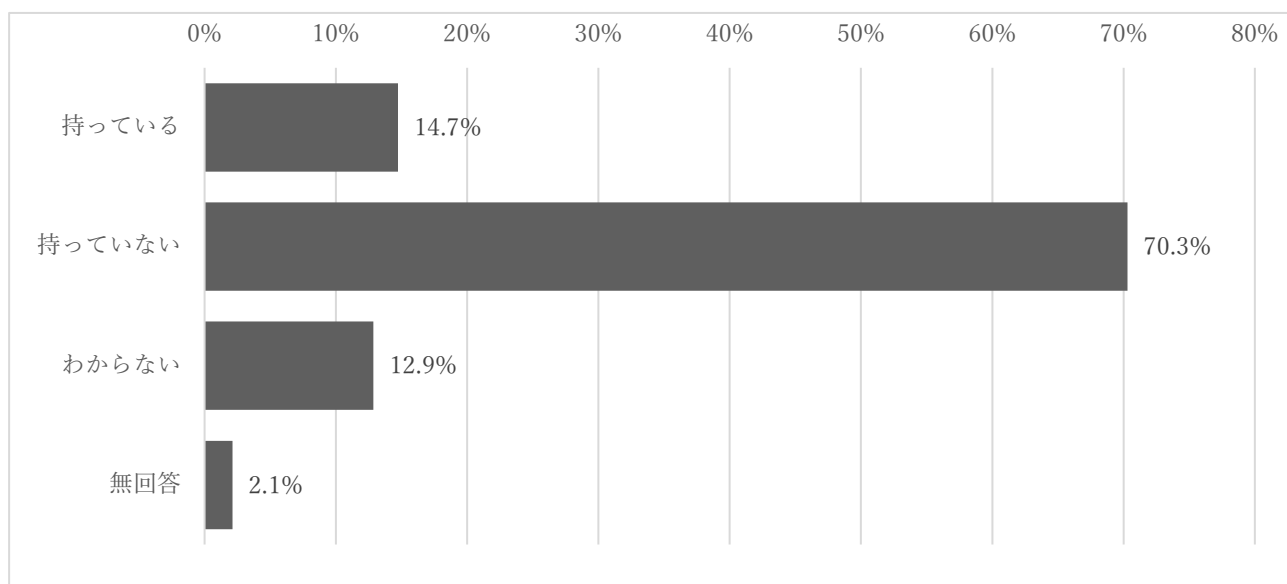
【図 12 かかりつけ薬剤師の認知度】



かかりつけ薬剤師の認知度についてみると、「知っている」が22.8%、「聞いたことがある」が17.2%、「知らない」が58.6%となっています。

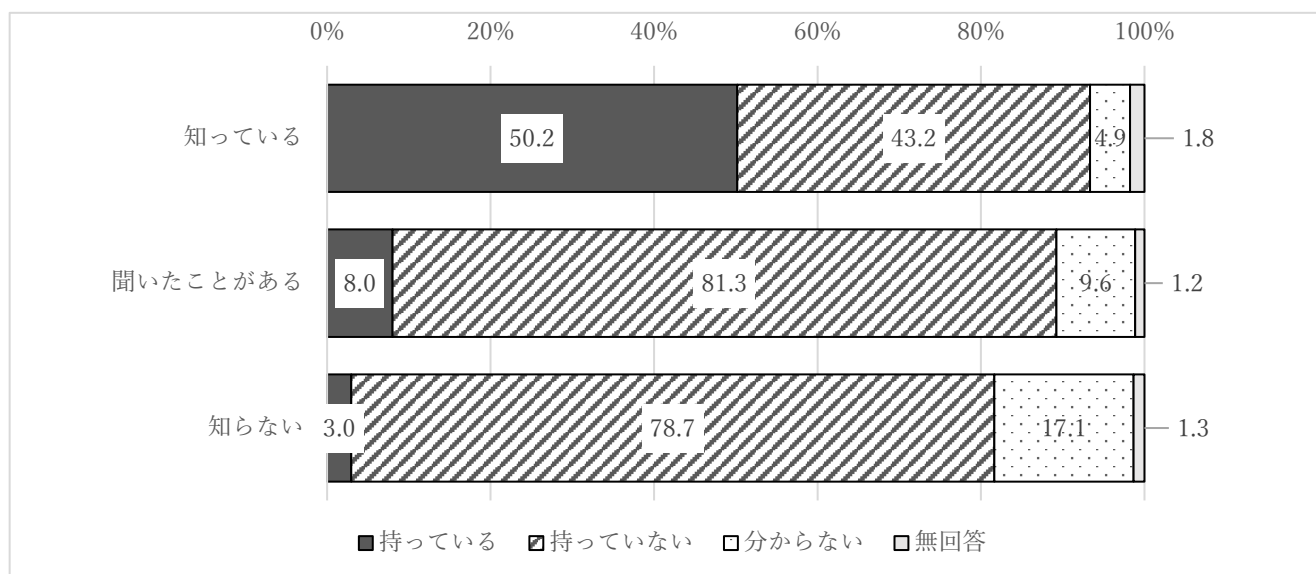
問 13 あなたは、かかりつけ薬剤師を持っていますか。(1つを選択)

【図 13 かかりつけ薬剤師の有無】



かかりつけ薬剤師の有無についてみると、「持っている」が14.7%、「持っていない」が70.3%、「わからない」が12.9%となっています。

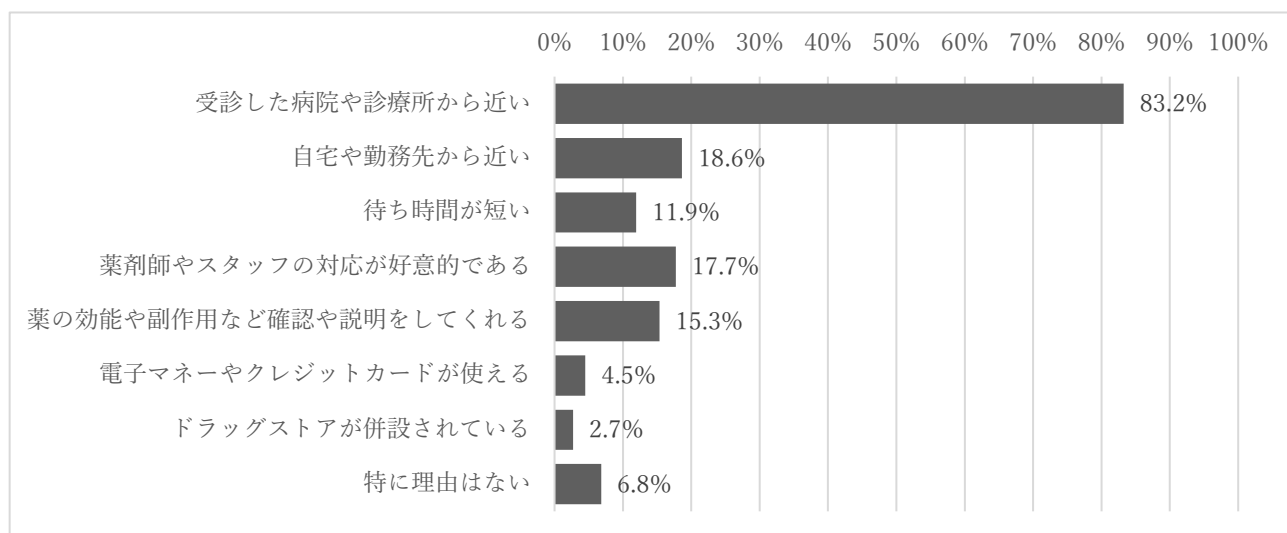
【図 13-1 かかりつけ薬剤師の認知度とかかりつけ薬剤師の有無】



かかりつけ薬剤師の認知度とかかりつけ薬剤師の有無の関連性をみると、「かかりつけ薬剤師を知っている」では 50.2%となっています。「聞いたことがある」では「かかりつけ薬剤師を持っていない」が 81.3%となっています。

問 14 あなたが、薬局を選ぶ理由を教えてください。(あてはまるものすべて選択)

【図 14 薬局を選ぶ理由】

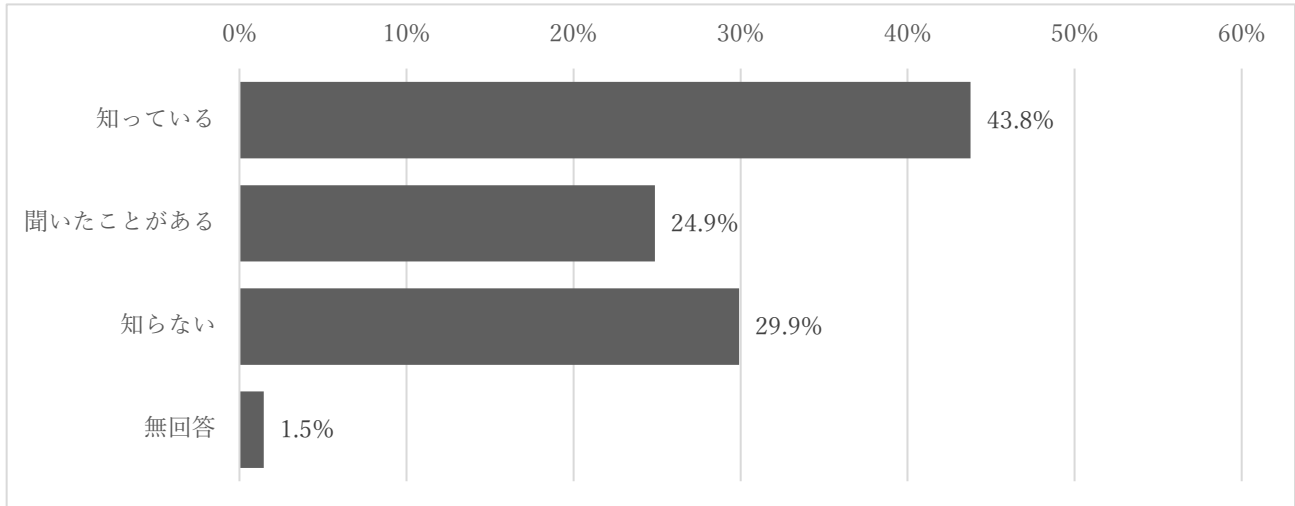


薬局を選ぶ理由についてみてみると、「受診した病院や診療所から近い」が 83.2%と最も高く、次いで「自宅や勤務先から近い」が 18.6%、「薬剤師やスタッフの対応が好意的である」が 17.7%となっています。

3. 地域医療の理解と普及について

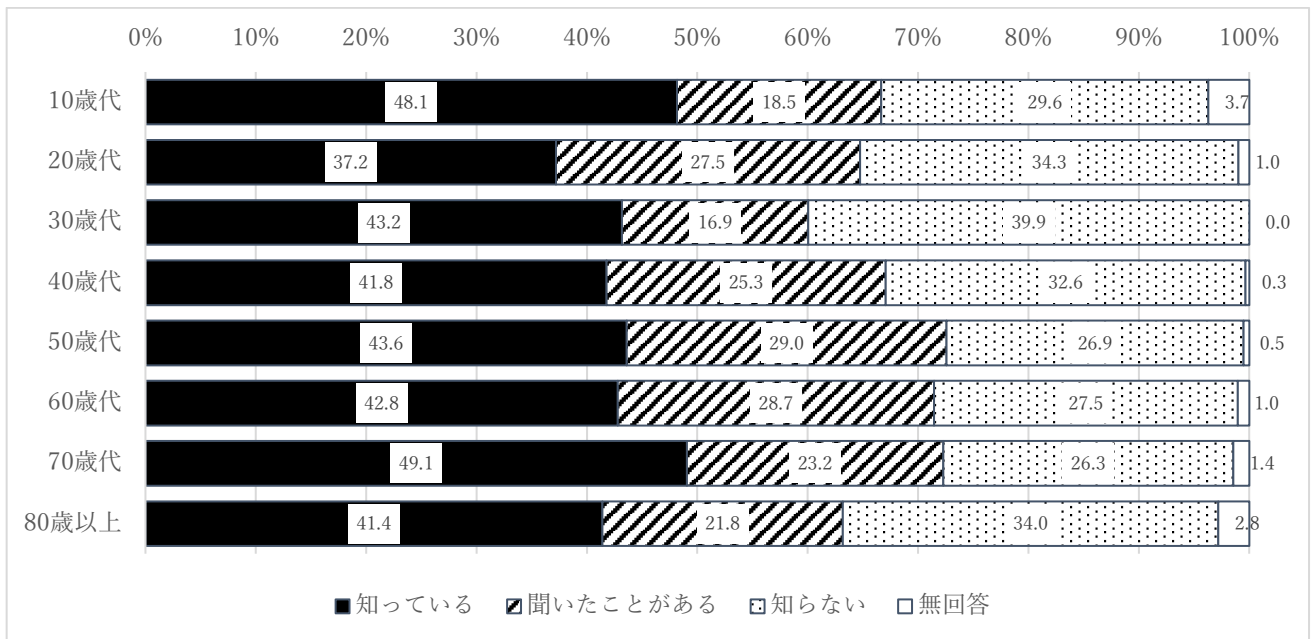
問 15 あなたは、医療機関には役割があり、役割に応じた医療機関を受診することが望ましいことを知っていますか。（1つを選択）*一次、二次、三次医療機関のこと。

【図 15 医療機関の機能分担の認知度】



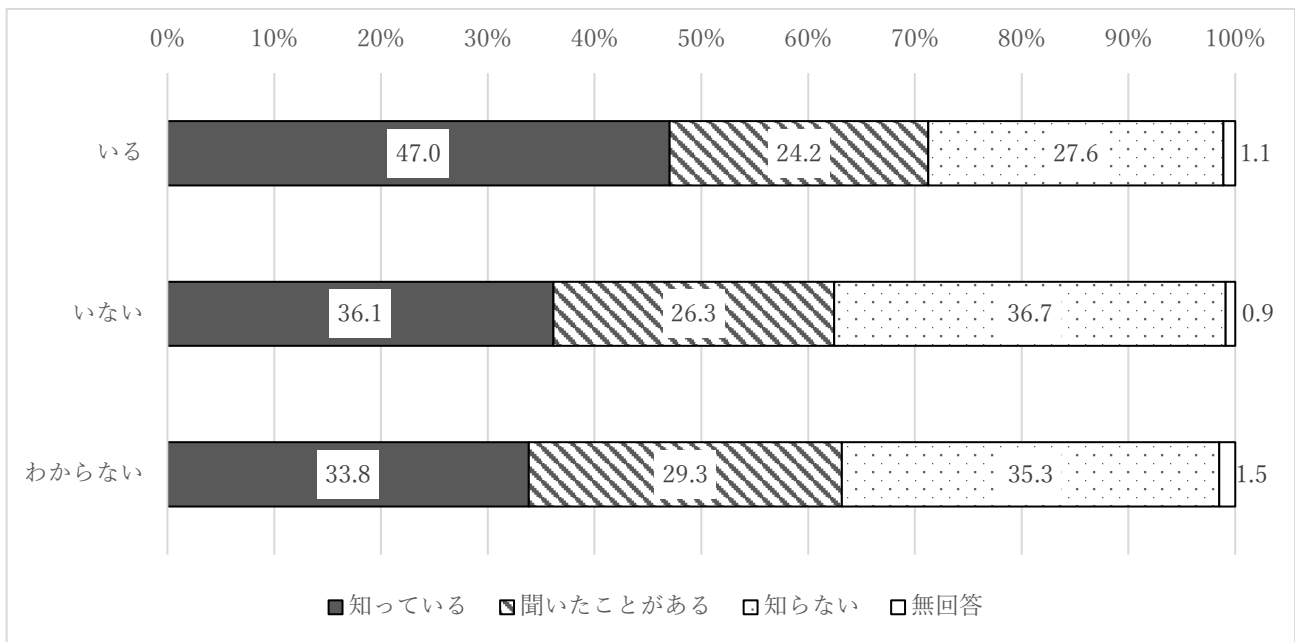
医療機関の機能分担の認知度についてみると、「知っている」が 43.8%、「聞いたことがある」が 24.9%、「知らない」が 29.9%となっています。

【図 15-1 医療機関の機能分担の認知度（年齢別）】



医療機関の機能分担の認知度を年齢別にみると、70歳代で「知っている」が 49.1%ともっとも高くなっています。次いで 10歳代が 48.1%、50歳代が 43.6%となっています。

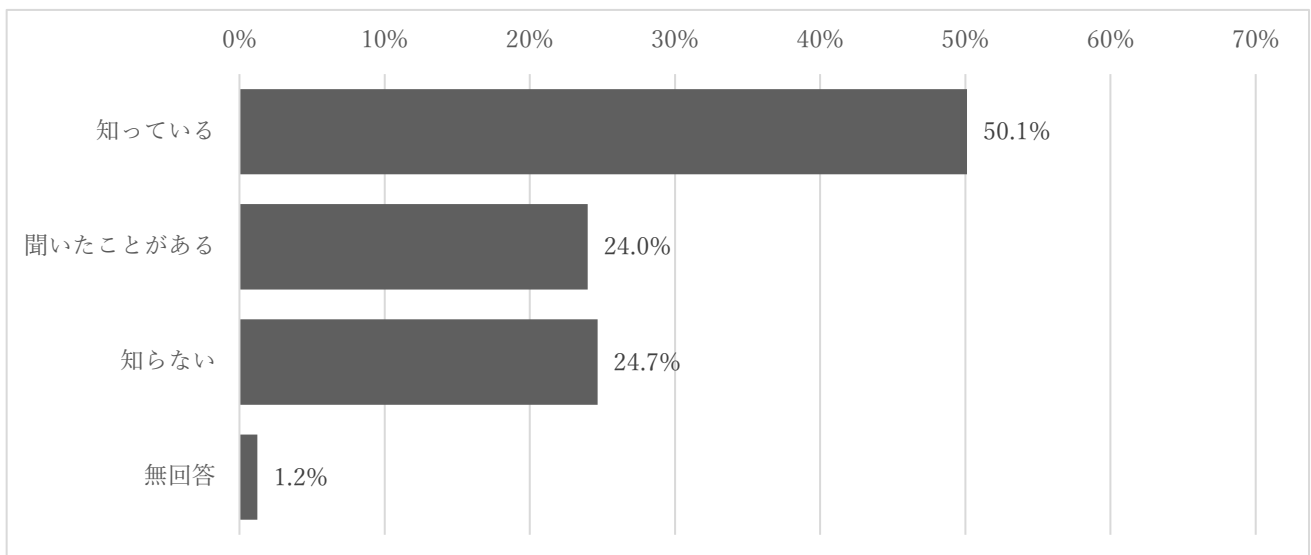
【図 15-2 医療機関の機能分担の認知度（かかりつけ医の有無別）】



医療機関の機能分担の認知度を、かかりつけ医の有無でみると、「かかりつけ医がいる」で医療機関の機能分担について「知っている」割合は47.0%となっています。

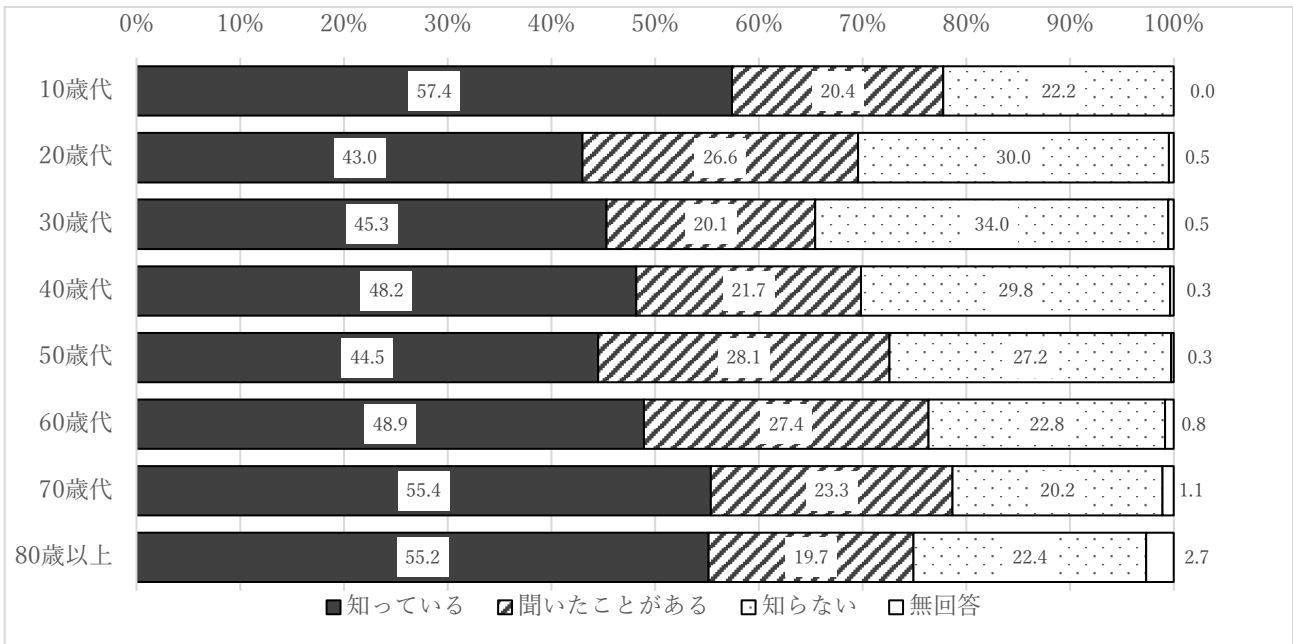
問 16 あなたは、病状の状態に応じた医療機関に入院し治療することが望ましいことを知っていますか。(1つを選択) *急性期、回復期、慢性期の病床機能のこと。

【図 16 病床機能の認知度】



病床機能の認知度についてみると、「知っている」が50.1%、「聞いたことがある」が24.0%、「知らない」が24.7%となっています。

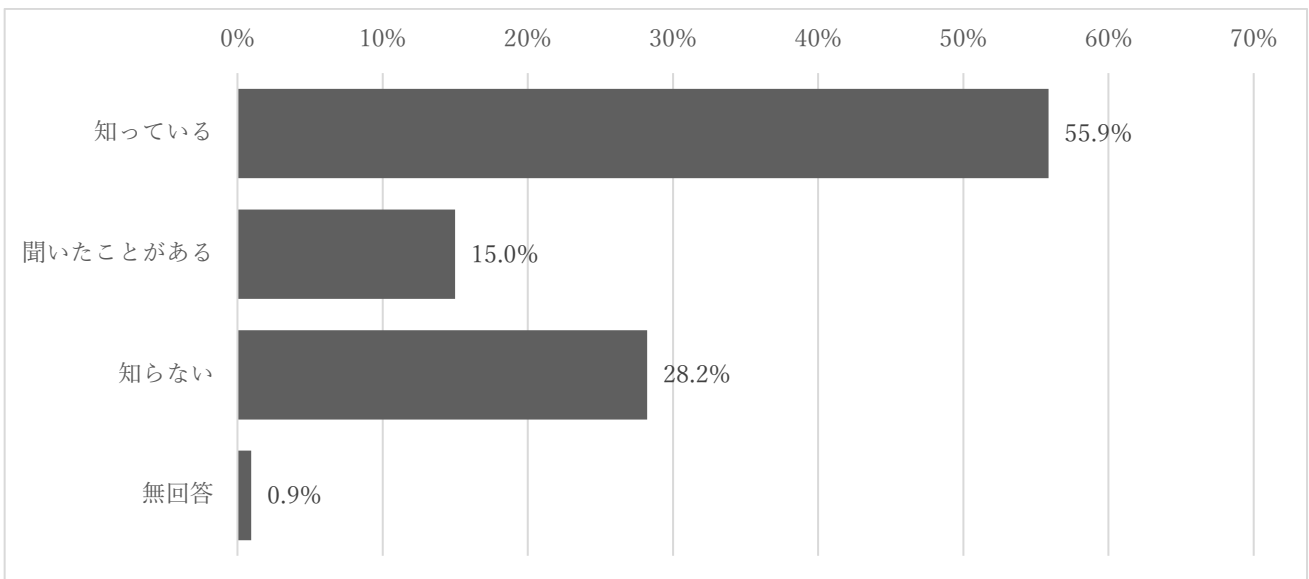
【図 16-1 病床機能の認知度（年齢別）】



病床機能の認知度を年齢別にみると、「知っている」が10歳代で57.4%と最も高く、次いで70歳代の55.4%、80歳以上の55.2%となっています。

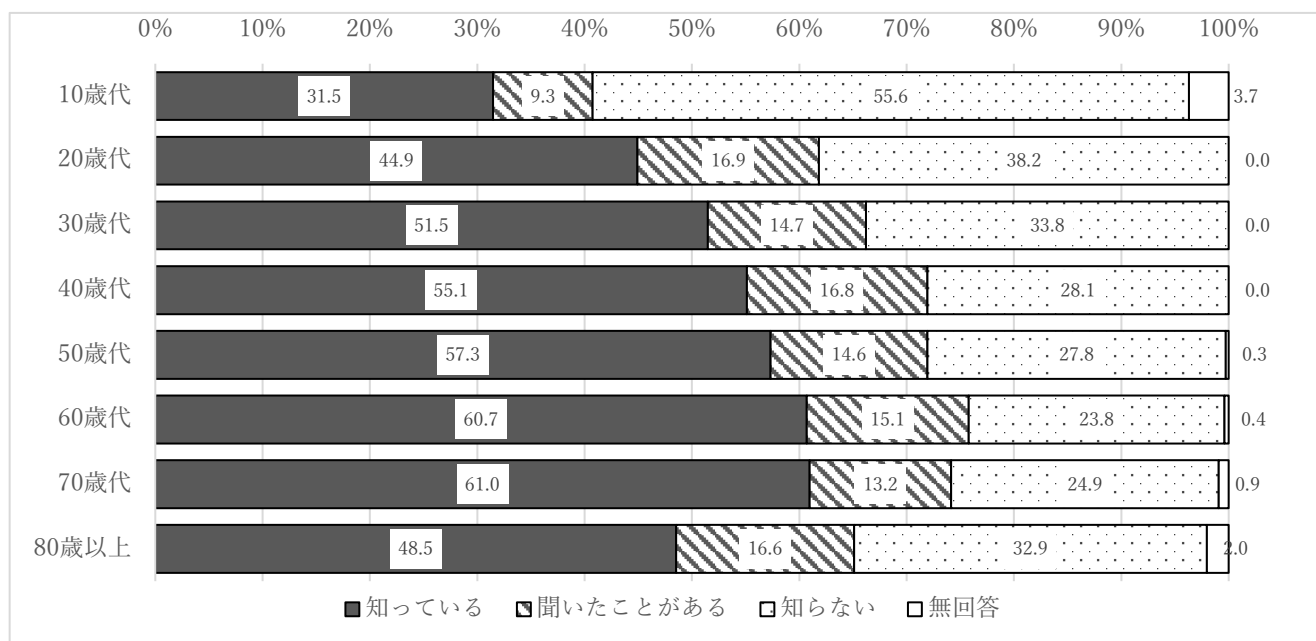
問 17 医療機関からの紹介状なしで大規模病院を受診した場合には、通常の医療費の他、初診時選定療養費が必要となることを知っていますか。（1つを選択）

【図 17 初診時選定療養費の認知度】



初診時選定療養費の認知度についてみると、「知っている」が55.9%、「聞いたことがある」が15.0%、「知らない」が28.2%となっています。

【図 17-1 初診時選定療養費（年齢別）】

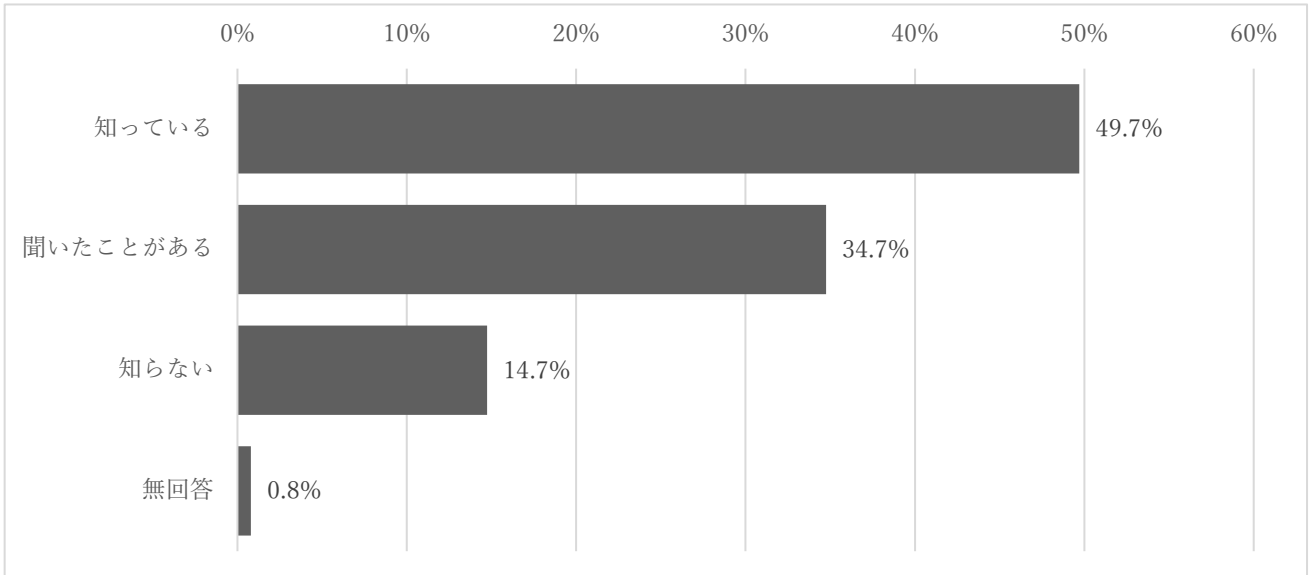


初診時選定療養費の認知度を年齢別にみると、「知っている」の割合は70歳代が61.0%で最も高い割合になっています。次いで60歳代が60.7%となっています。「知らない」の割合は、10歳代で55.6%と最も高く、次いで20歳代の38.2%となっています。

4. 在宅医療・人生会議の理解と普及について

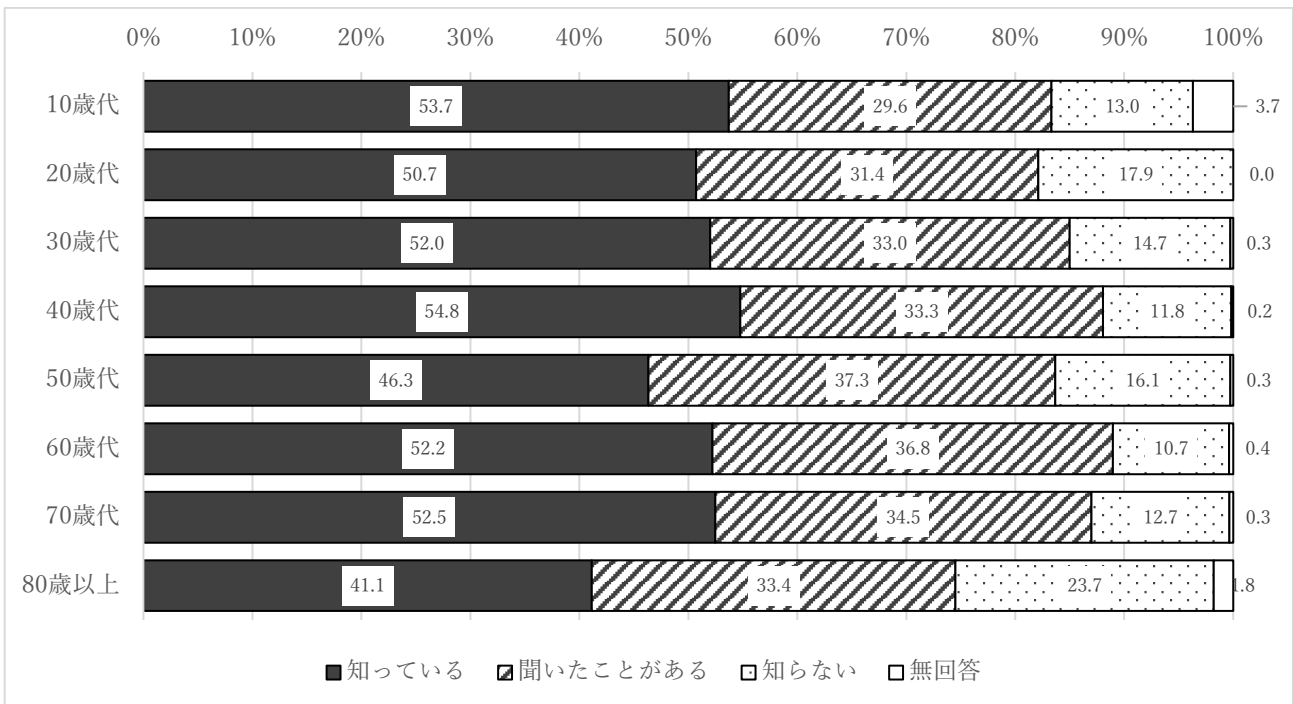
問 18 あなたは在宅医療について知っていますか。(1つを選択)

【図 18 在宅医療の認知度】



在宅医療の認知度についてみると、「知っている」が49.7%、「聞いたことがある」が34.7%、「知らない」が14.7%となっています。

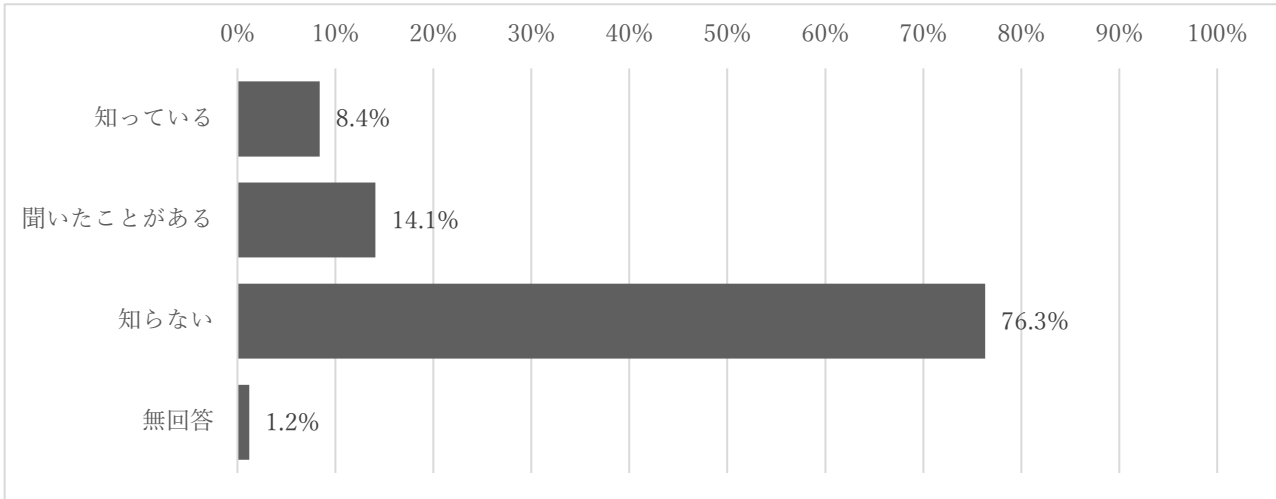
【図 18-1 在宅医療の認知度（年齢別）】



在宅医療の認知度を年齢別にみると、80歳以上を除き、「知っている」の割合が約半数となっています。

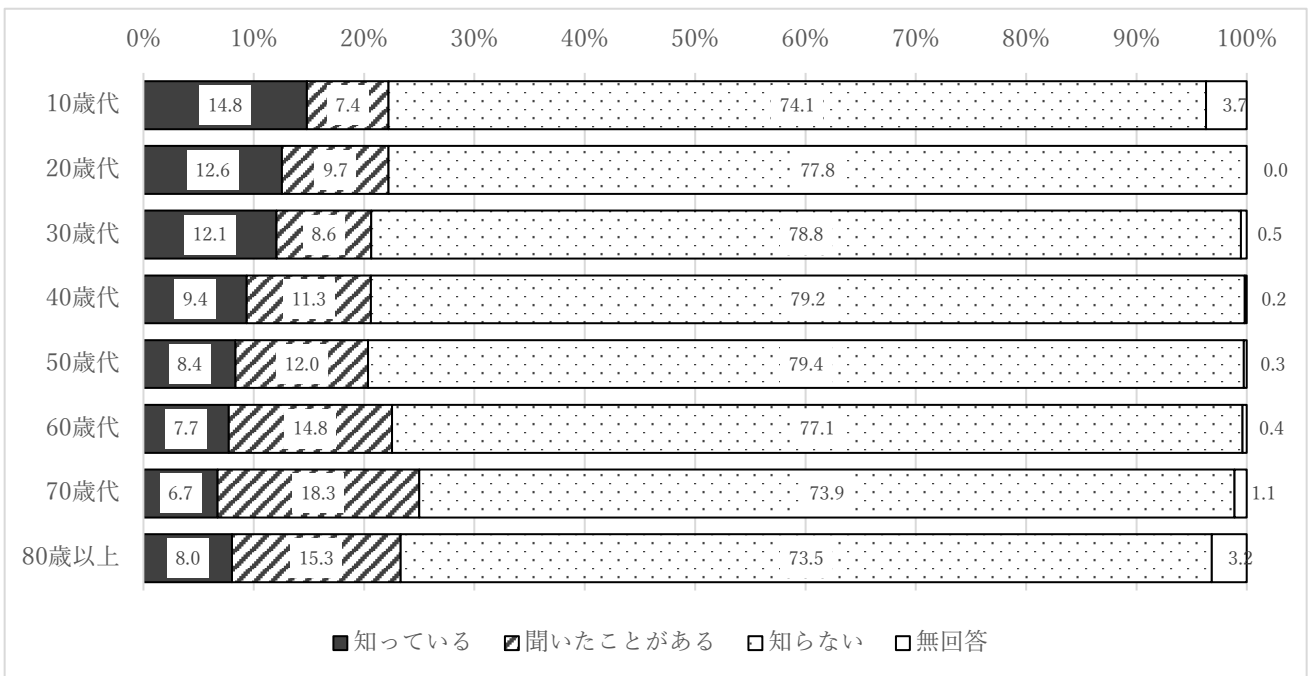
問 19 あなたは、人生会議（ACP、アドバンス・ケア・プランニング）という取り組みを知っていますか。（1つを選択）

【図 19 人生会議の認知度】



人生会議（ACP、アドバンス・ケア・プランニング）の認知度についてみると、「聞いたことがある」が14.1%、「知らない」が76.3%となっています。

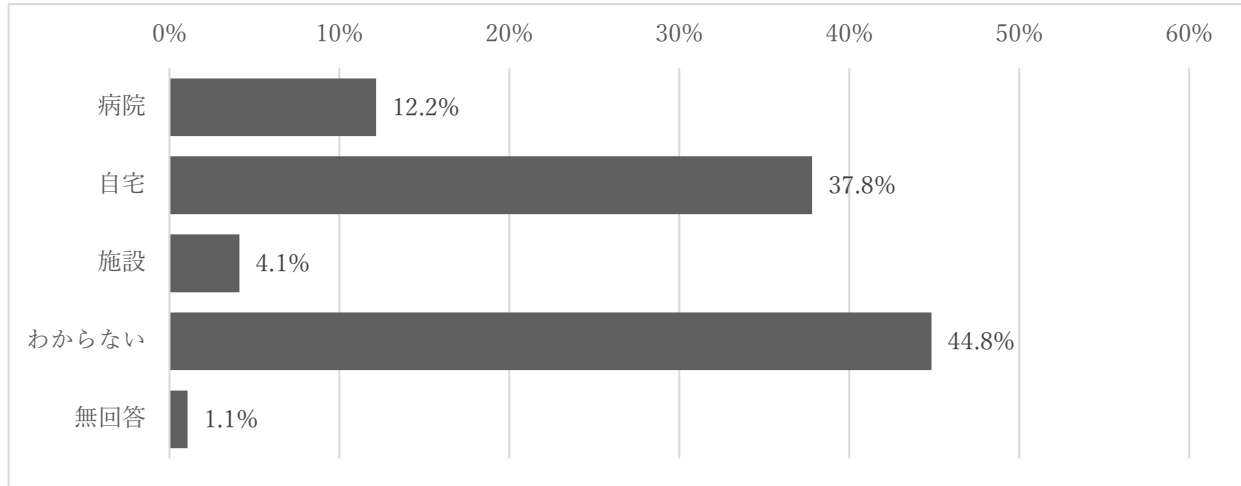
【図 19-1 人生会議の認知度（年齢別）】



人生会議（ACP・アドバンス・ケア・プランニング）の認知度を年齢別にみると、どの年代も「知らない」の割合が高くなっています。「知っている」の割合では、10歳代が14.8%、20歳代が12.6%と、他の年代と比べると高い割合となっています。

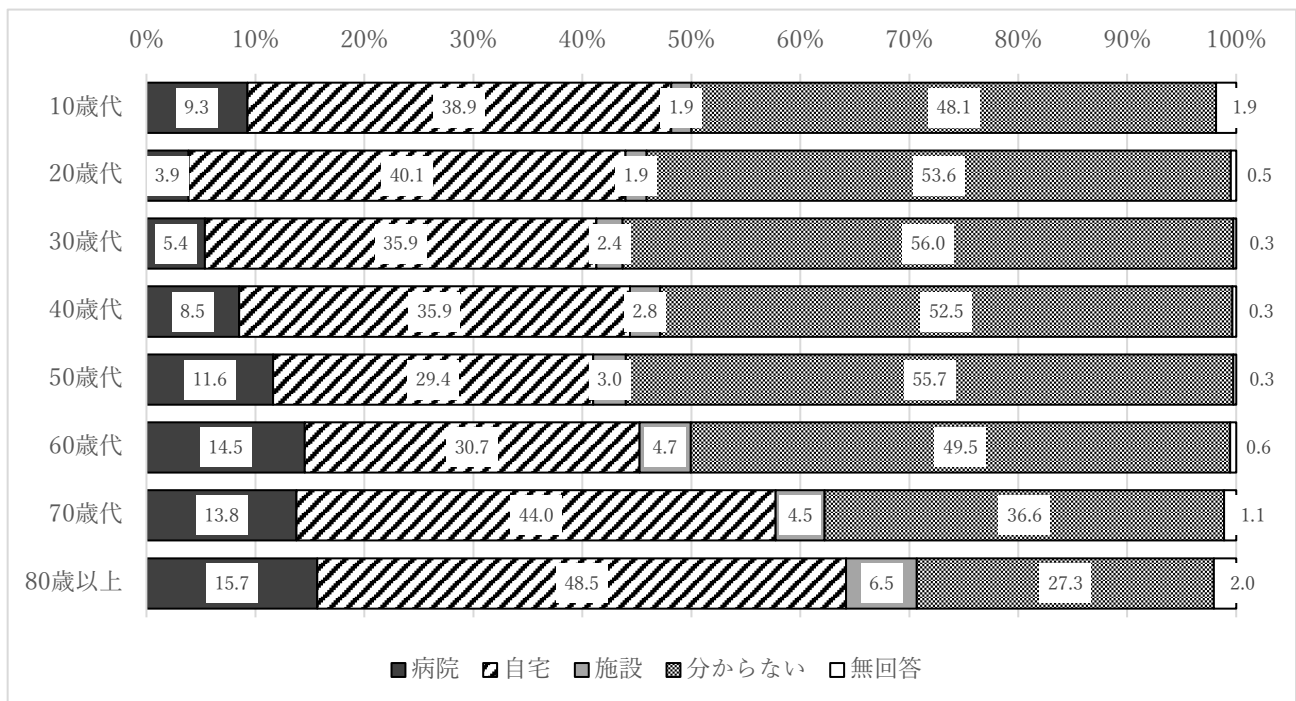
問 20 あなたは、人生の最期はどこで迎えたいですか。(1つを選択)

【図 20 最期を迎える場所】



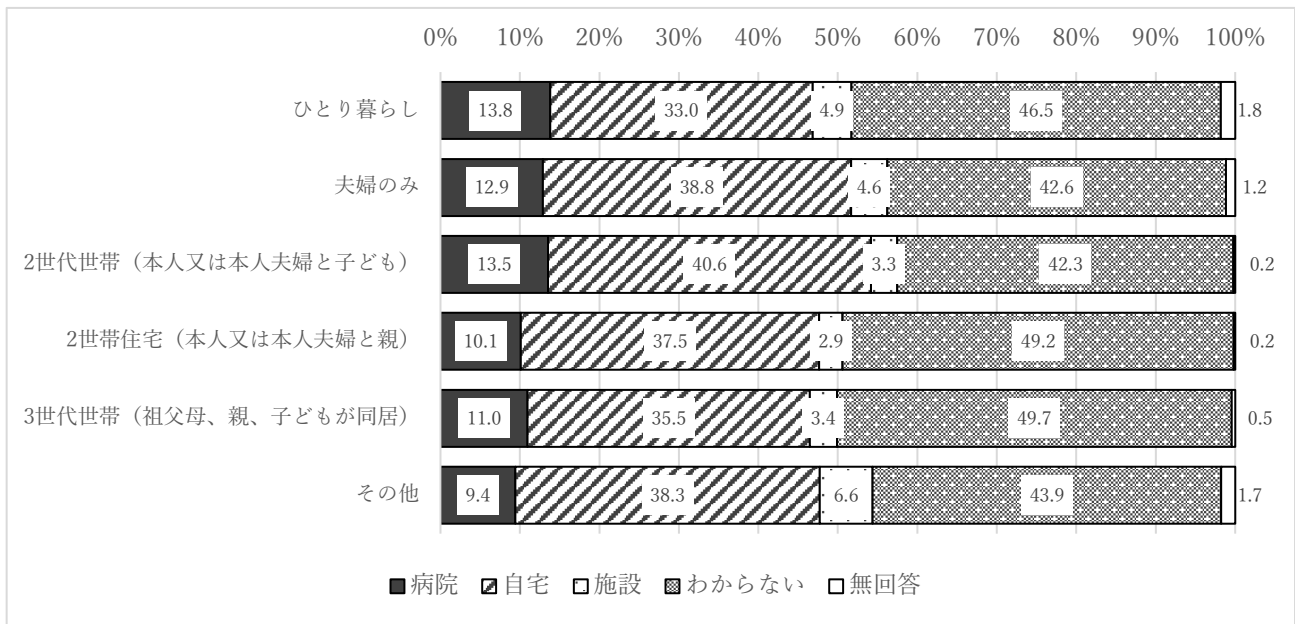
人生の最期を迎えたい場所についてみると、「わからない」が44.8%と最も高く、次いで「自宅」が37.8%、「病院」が12.2%となっています。

【図 20-1 最期を迎える場所 (年齢別)】



人生の最期を迎える場所について、年齢別にみると、「自宅」の割合が70歳代では44.0%、80歳以上では48.5%と高くなっています。そのほかの年齢では「分からない」の割合が高くなっています。

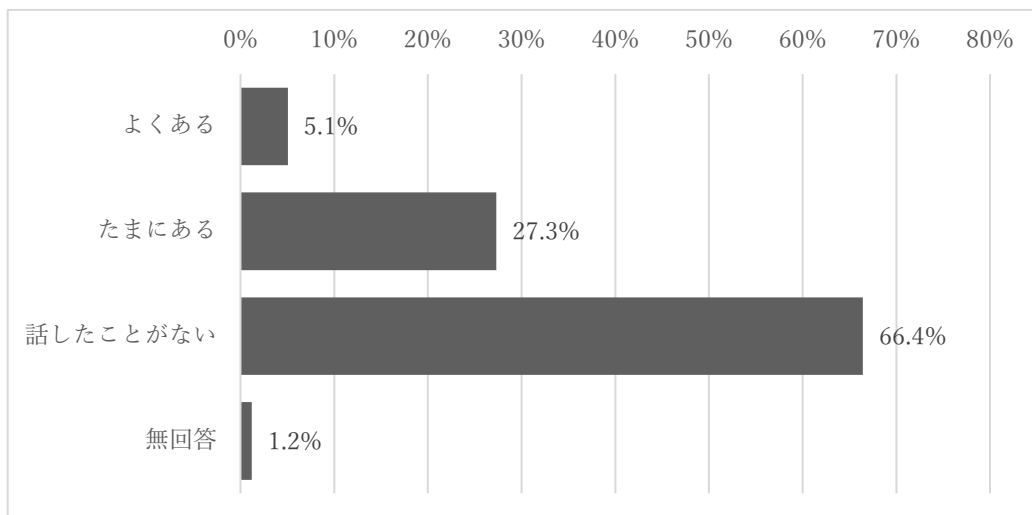
【図 20-2 最期を迎える場（世帯別）】



人生の最期を迎える場所について、世帯別で見ると、2 世代世帯（本人又は本人夫婦と子ども）は「自宅」が 40.6%と最も高くなっています。

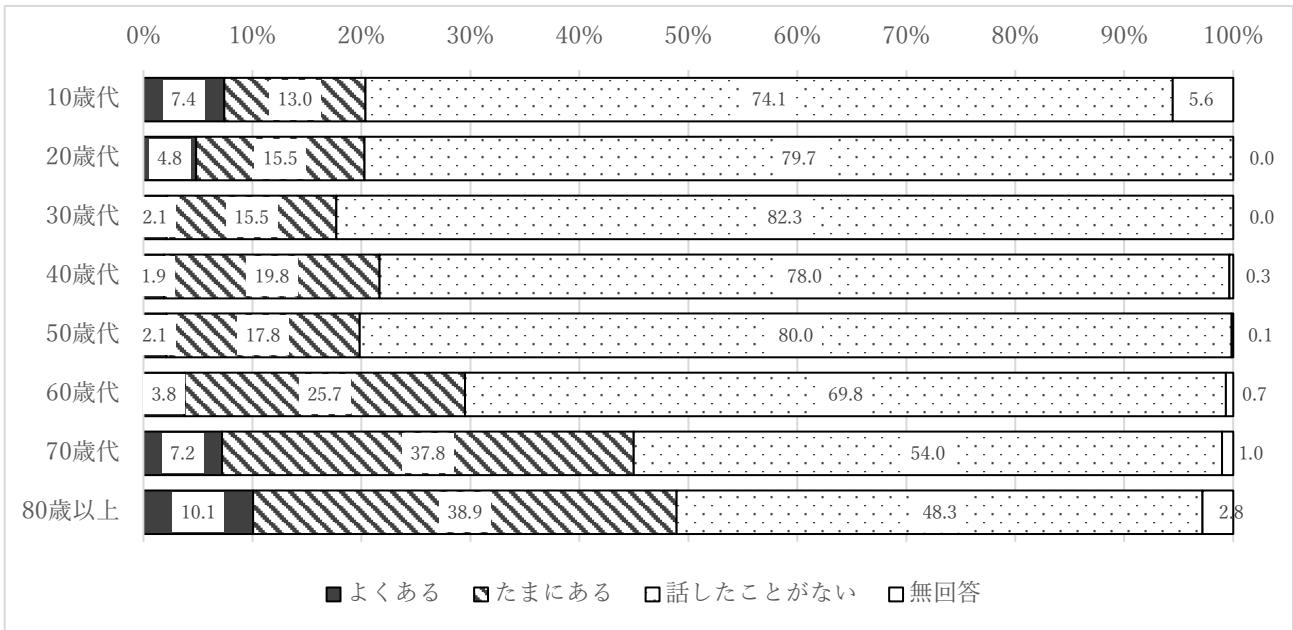
問 21 あなたは、人生の最期をどこで迎えたいかについて家族やあなたの信頼する人たちと会話をすることはありますか。（1つを選択）

【図 21 人生の最期について家族や信頼する人たちと会話するか】



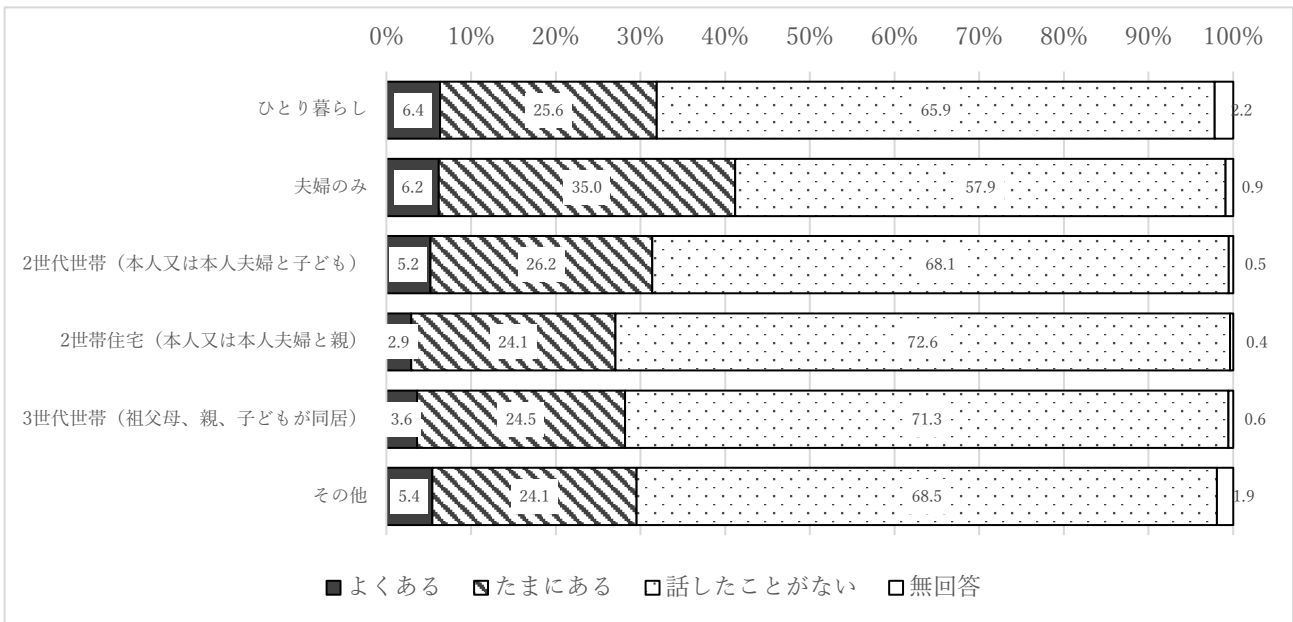
人生の最期について家族や信頼する人たちと会話するかについてみると、「話したことがない」が 66.4%と最も高く、次いで「たまにある」が 27.3%、「よくある」が 5.1%となっています。

【図 21-1 人生の最期について家族や信頼する人たちと会話するか（年齢別）】



人生の最期について家族や信頼する人たちと会話するかについて、年齢別にみると、20歳代から50歳代までにおいて、約80%が「話したことがない」となっています。80歳以上においては「よくある」が10.1%、「たまにある」が38.9%で二つを合わせて49%となっています。

【図 21-2 人生の最期について家族や信頼する人たちと会話するか（世帯別）】

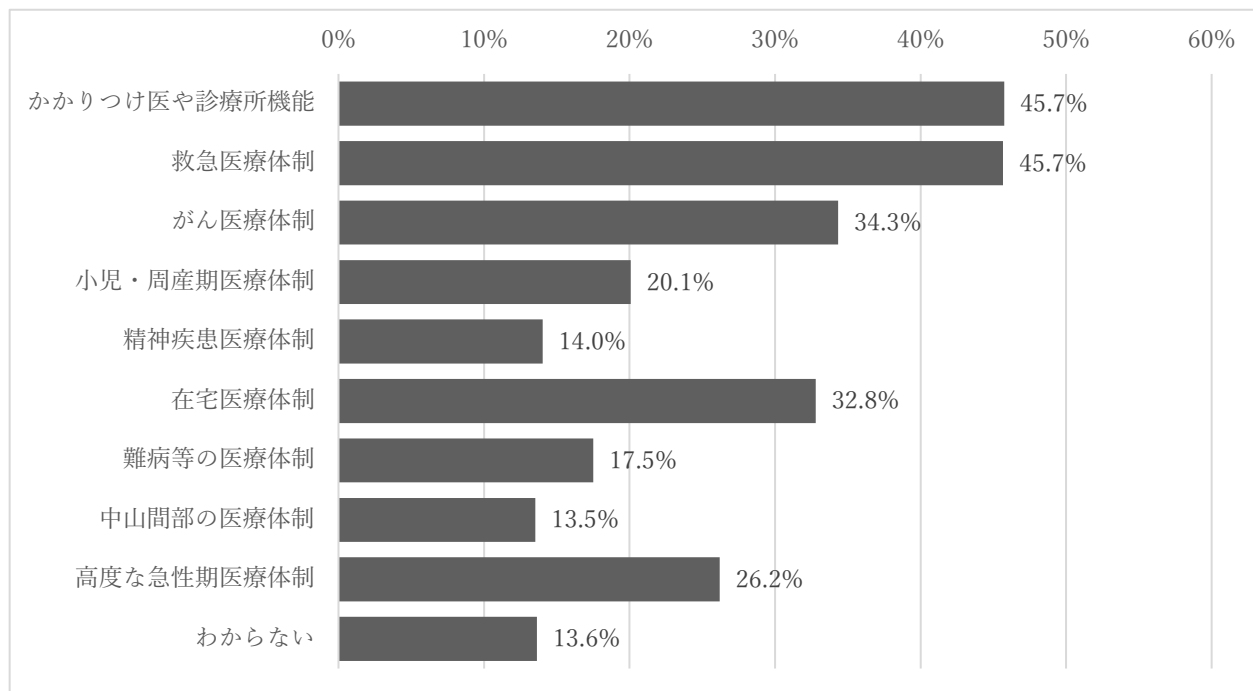


人生の最期について家族や信頼する人たちと会話するかについて、世帯別で見ると、どの世帯数でも「話したことがない」の割合が高くなっています。「夫婦のみ」では、「よくある(6.2%)」「たまにある(35.0%)」を合わせて41.2%と、他の年齢より高くなっています。

5. 鶴岡市の医療について

問 22 鶴岡市の医療について、今後どのような医療体制を充実させて欲しいと考えているか教えてください。(あてはまるものすべてを選択)

【図 22 充実させてほしい医療体制】



鶴岡市で充実させてほしい医療体制についてみると、「かかりつけ医や診療所機能」「救急医療体制」が45.7%と最も高く、次いで「がん医療体制」が34.3%、「在宅医療体制」が32.8%となっています。

【図 22-1 充実させてほしい医療（年齢別）】※上位 3 項目を掲載

	第 1 位	第 2 位	第 3 位
10 歳代 (N=115)	かかりつけ医や診療所機能 16.5%	がん医療体制 13.9%	わからない 11.3%
20 歳代 (N=512)	かかりつけ医や診療所機能 19.1%	救急医療体制 15.4%	小児・周産期医療体制 11.5%
30 歳代 (N=1041)	小児・周産期医療体制 19.1%	かかりつけ医や診療所機能 15.2%	救急医療体制 15.0%
40 歳代 (N=1678)	救急医療体制 17.3%	がん医療体制 15.4%	かかりつけ医や診療所機能 13.2%
50 歳代 (N=2237)	救急医療体制 18.3%	かかりつけ医や診療所機能 15.4%	がん医療体制 14.9%
60 歳代 (N=2916)	救急医療体制 18.3%	かかりつけ医や診療所機能 16.5%	がん医療体制 14.4%
70 歳代 (N=2979)	かかりつけ医や診療所機能 19.0%	救急医療体制 17.6%	在宅医療体制 14.9%
80 歳以上 (N=1729)	かかりつけ医や診療所機能 23.4%	救急医療体制 17.6%	在宅医療体制 14.2%

充実させてほしい医療について、年齢別にみると、30 歳代では、「小児・周産期医療体制」の医療が最も高くなっています。40-60 歳代では「救急医療体制」、10-20 歳代および 70-80 歳以上では「かかりつけ医や診療所機能」の割合が最も高くなっています。

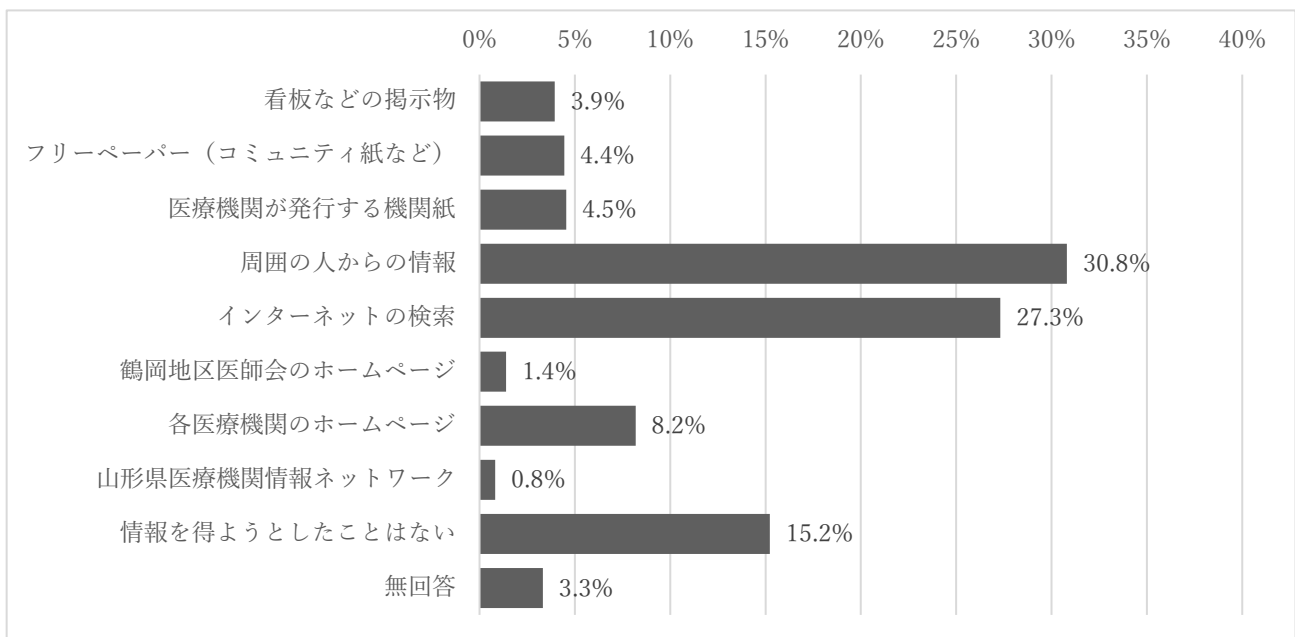
【図 22-2 充実させてほしい医療（居住地域）】※上位3項目を掲載

	1位	2位	3位
旧第1～6学区 (N=6538)	救急医療体制 17.5%	かかりつけ医や診療所機能 17.1%	がん医療体制 13.1%
旧第1～6学区以外 (N=2458)	かかりつけ医や診療所機能 18.2%	救急医療体制 18.0%	がん医療体制 13.5%
藤島地域 (N=1041)	かかりつけ医や診療所機能 17.9%	救急医療体制 17.2%	がん医療体制 13.0%
羽黒地域 (N=774)	かかりつけ医や診療所機能 17.3%	救急医療体制 17.1%	がん医療体制 14.2%
榎引地域 (N=694)	救急医療体制 16.4%	かかりつけ医や診療所機能 16.0%	がん医療体制 13.0%
朝日地域 (N=499)	救急医療体制 16.2%	かかりつけ医や診療所機能 16.0%	中山間部の医療体制 13.6%
温海地域 (N=1094)	かかりつけ医や診療所機能 18.0%	救急医療体制 15.6%	中山間部の医療体制 11.8%

充実させてほしい医療について、居住地域別にみると、「中山間部の医療体制」が朝日地域と温海地域で3位になっています。

問 23 医療機関の情報を得る手段として普段よく使うものを教えてください。（1つを選択）

【図 23 医療機関情報の入手手段】



医療機関の情報の入手手段についてみると、「周囲の人からの情報」が30.8%と最も高く、次いで「インターネットの検索」で27.3%、「情報を得ようとしたことはない」が15.2%となっています。

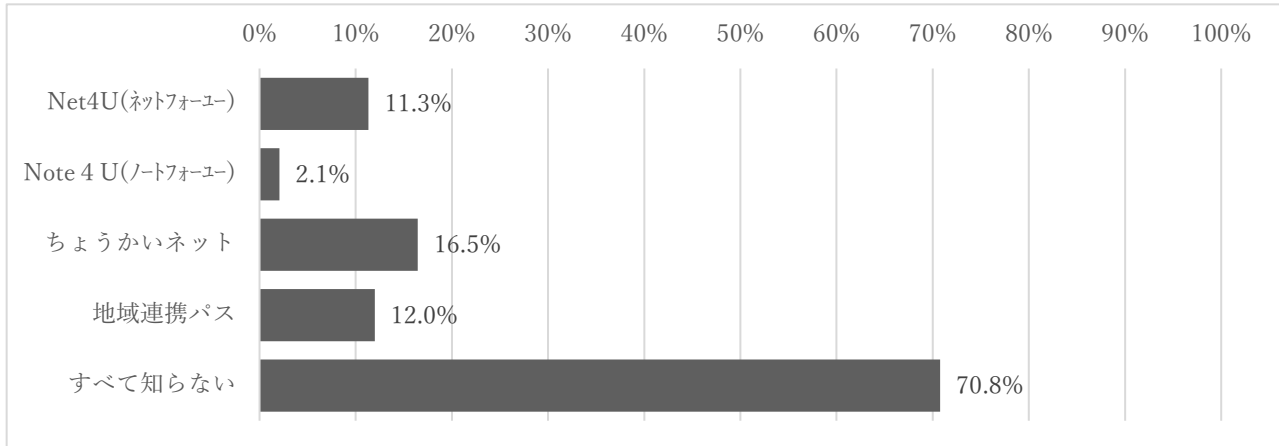
【図 23-1 医療機関情報の入手手段（年齢別）】※上位3項目を掲載

	1位	2位	3位
10歳代 (N=54)	周囲の人からの情報 29.6%	インターネットの検索 22.2%	情報を得ようとしたことはない 18.5%
20歳代 (N=207)	インターネットの検索 53.6%	周囲の人からの情報 20.8%	各医療機関のホームページ 10.1%
30歳代 (N=373)	インターネットの検索 53.9%	周囲の人からの情報 23.1%	各医療機関のホームページ 12.6%
40歳代 (N=577)	インターネットの検索 49.0%	周囲の人からの情報 19.6%	各医療機関のホームページ 16.1%
50歳代 (N=766)	インターネットの検索 41.5%	周囲の人からの情報 26.0%	各医療機関のホームページ 12.1%
60歳代 (N=1061)	周囲の人からの情報 30.0%	インターネットの検索 27.9%	情報を得ようとしたことはない 15.8%
70歳代 (N=1176)	周囲の人からの情報 39.2%	情報を得ようとしたことはない 20.4%	インターネットの検索 10.4%
80歳以上 (N=785)	周囲の人からの情報 39.4%	情報を得ようとしたことはない 24.3%	医療機関が発行する機関紙 9.0%

医療機関情報の入手手段について、年齢別にみると、20歳代から50歳代は「インターネットの検索」の割合が高くなっています。10歳代および60歳以上は「周囲の人からの情報」がもっとも高くなっています。また70歳代、80歳以上の2割の人が「情報を得ようとしたことがない」と答えています。

問 24 庄内地域の医療機関では、医療機関同士での円滑な連携やスムーズな情報伝達に役立つ地域医療連携ツールを活用しています。あなたが知っているものを教えてください。
(あてはまるものすべてを選択)

【図 24 地域医療連携ツールの認知度】



地域医療連携ツールの認知度についてみると、「すべて知らない」が70.8%と最も高く、次いで「ちようかいネット」が16.5%、「Net4U (ネットフォーユー)」が11.3%となっています。

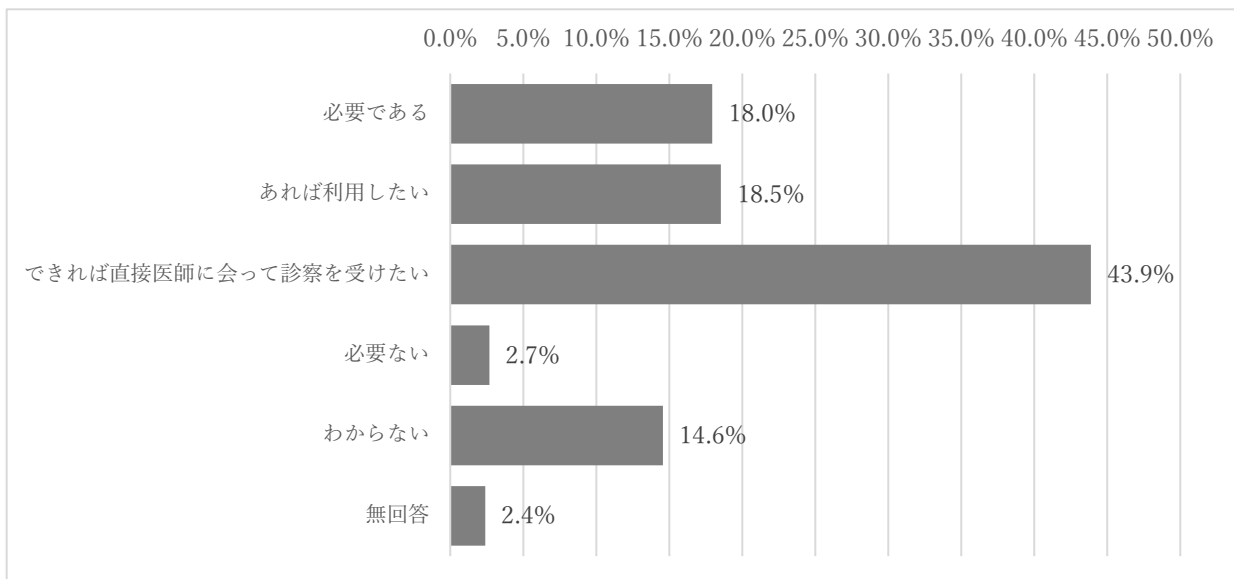
【図 24-1 地域医療連携ツールの認知度 (年齢別)】 ※上位 3 項目を掲載

	1 位	2 位	3 位
10 歳代 (N=50)	すべて知らない 92.0%	Net4U 4.0%	ちようかいネット 2.0%
20 歳代 (N=250)	すべて知らない 65.2%	ちようかいネット 14.8%	Net4U 10.0%
30 歳代 (N=482)	すべて知らない 55.0%	ちようかいネット 19.1%	Net4U 12.2%
40 歳代 (N=724)	すべて知らない 53.0%	ちようかいネット 19.2%	Net4U 15.1%
50 歳代 (N=935)	すべて知らない 54.4%	ちようかいネット 18.5%	Net4U 13.8%
60 歳代 (N=1196)	すべて知らない 60.1%	ちようかいネット 16.7%	地域連携パス 11.7%
70 歳代 (N=1243)	すべて知らない 69.0%	地域連携パス 11.2%	ちようかいネット 11.0%
80 歳以上 (N=766)	すべて知らない 79.1%	地域連携パス 8.6%	ちようかいネット 5.9%

地域医療連携ツールの認知度を、年齢別にみると、どの年齢でも「すべて知らない」の割合が最も高くなっています。次に 20-60 歳代ではちようかいネット、70 歳代以上では地域連携パスとなっています。

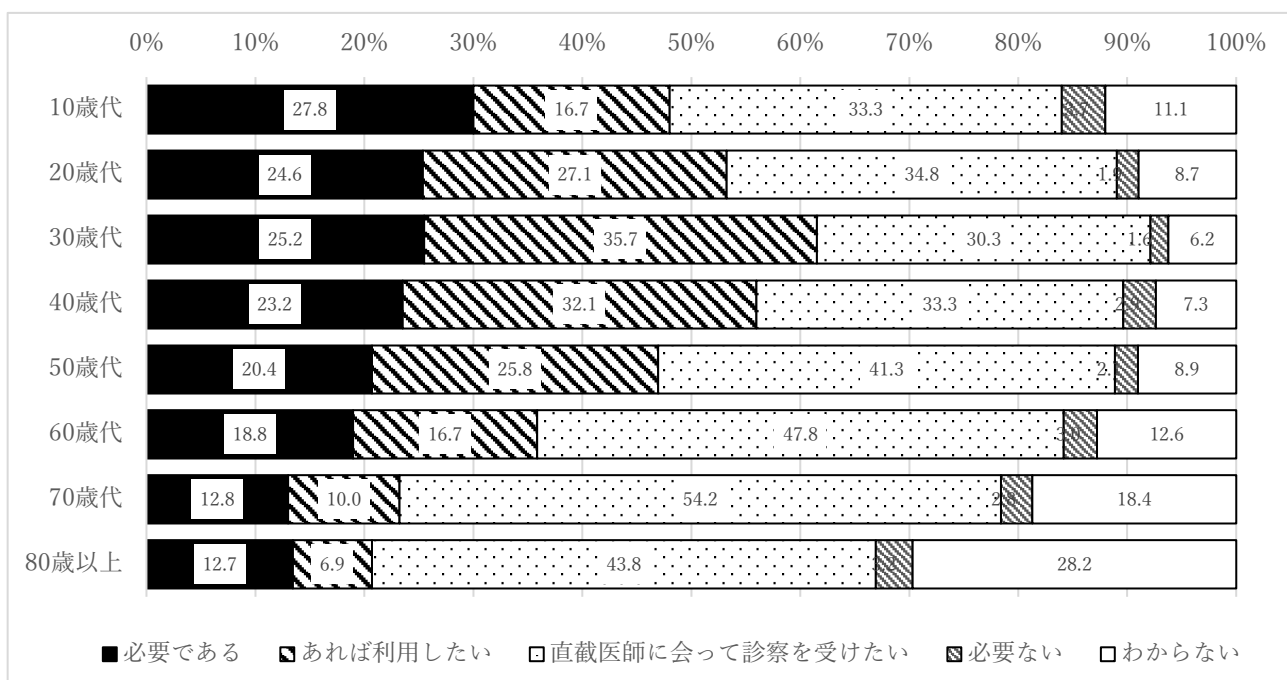
問 25 オンライン診療が話題となっていますが、コロナ禍に限らず日ごろからオンライン診療は必要と思いますか。（1つを選択）

【図 25 オンライン診療の必要性】



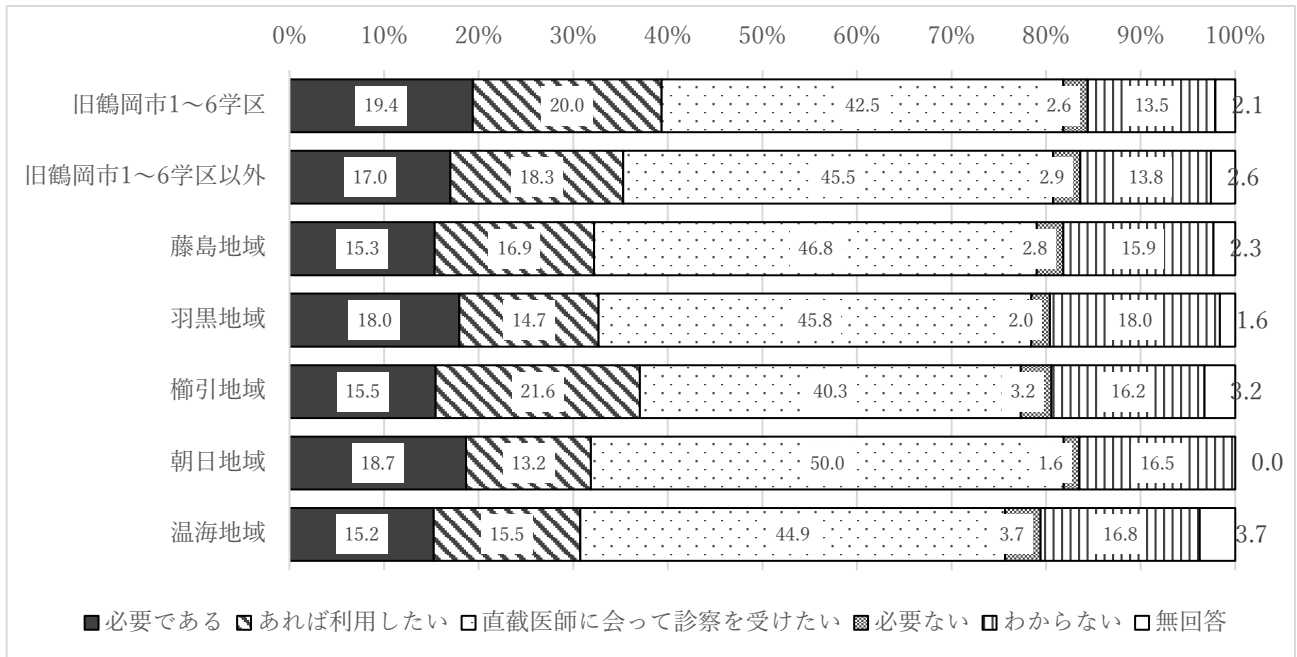
オンライン診療の必要性についてみると、「できれば直接医師に会って診察を受けたい」が 43.9% と最も高く、次いで「あれば利用したい」が 18.5%、「必要である」が 18.0%となっています。

【図 25-1 オンライン診療の必要性（年齢別）】



オンライン診療の必要性について、年齢別にみると、年齢層が上がるにつれて「直接医師に会って診察を受けたい」の割合が高くなっています。

【図 25-2 オンライン診療の必要性（居住地域別）】



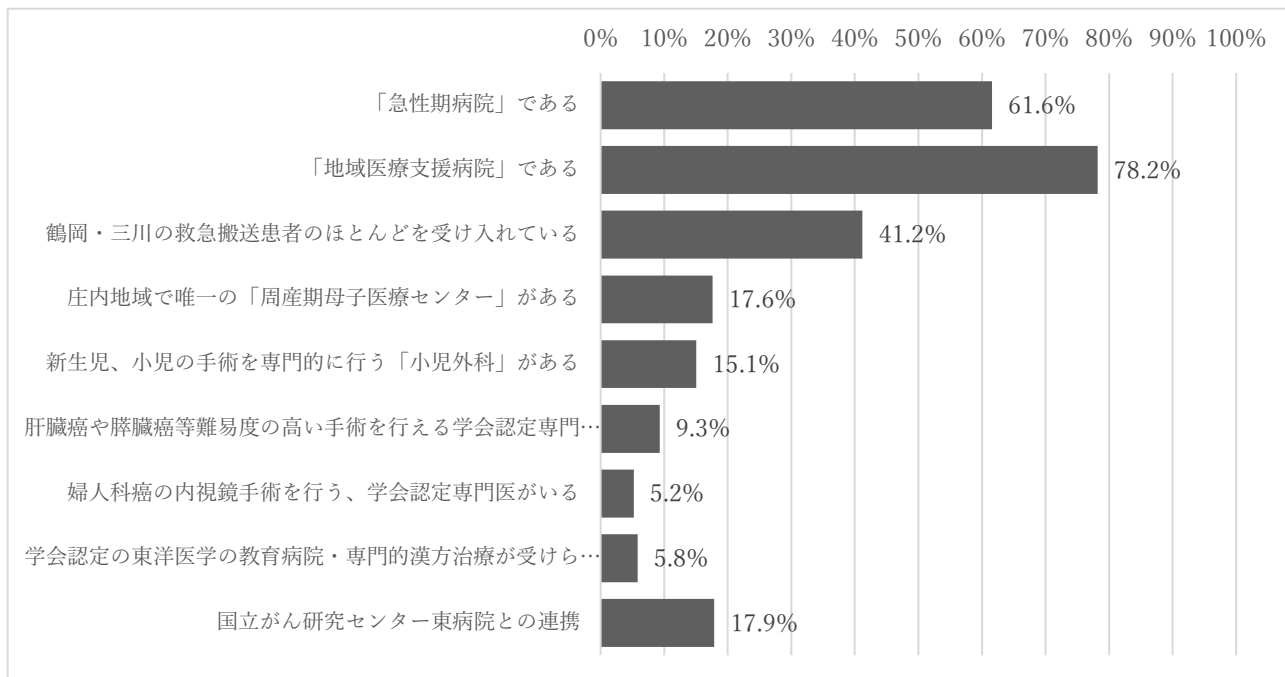
オンライン診療の必要性について、居住地域別にみると、どの項目も地域差がありません。いずれの地域も「直接医師にあって診察を受けたい」の割合が高くなっています。

6. 地域医療における荘内病院について

問 26 以下の荘内病院の取り組みであなたが知っていることを教えてください。

(あてはまるものにすべてを選択)

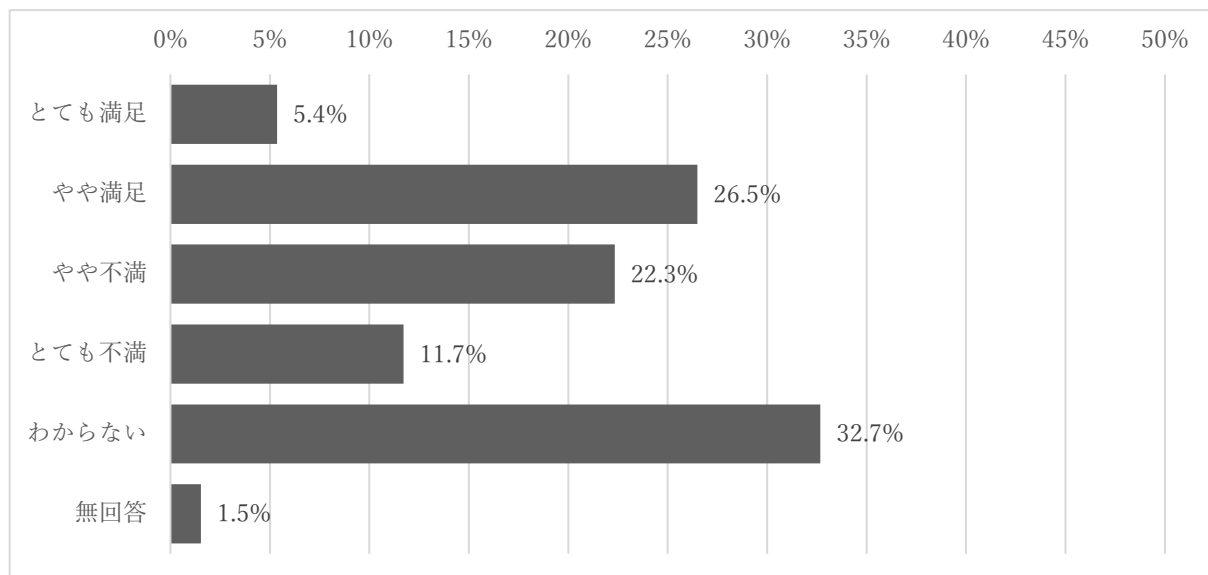
【図 26 荘内病院の取り組みの認知度】



荘内病院の取り組みの認知度についてみると、「受診する場合は、原則かかりつけ医からの紹介状が必要な地域医療支援病院である」が 78.2%と最も高く、次いで「救急対応が必要な患者さんや、重症な病気に対する治療や手術を行う急性期病院である」が 61.6%、「鶴岡市や三川町地域の救急搬送される患者のほとんどを受け入れている」が 41.2%となっています。

問 27 現在の荘内病院に関する総合的な満足度を教えてください。(1つを選択)

【図 27 荘内病院の満足度】

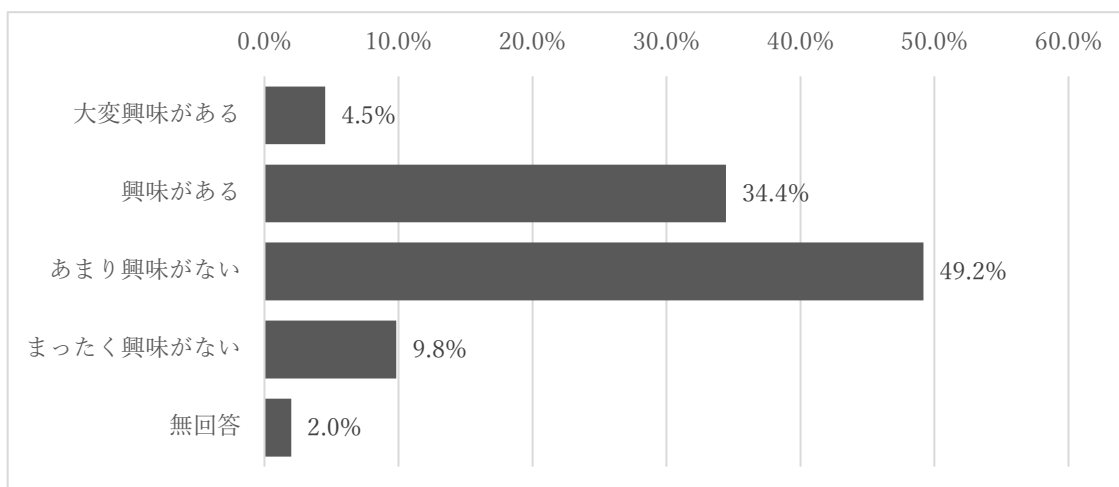


荘内病院の総合的な満足度についてみると、「わからない」が 32.7%と最も高く、次いで「やや満足」が 26.5%、「やや不満」が 22.3%となっています。

7. その他

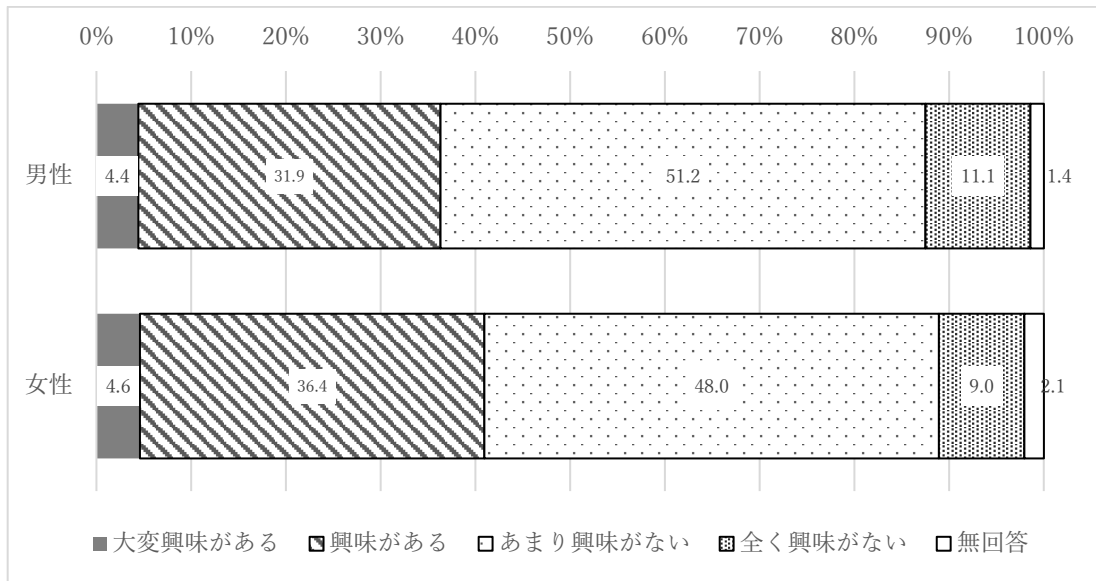
問 28 鶴岡市の地域医療に関する情報や市民勉強会に興味がありますか。(1つを選択)

【図 28 地域医療に関する興味】



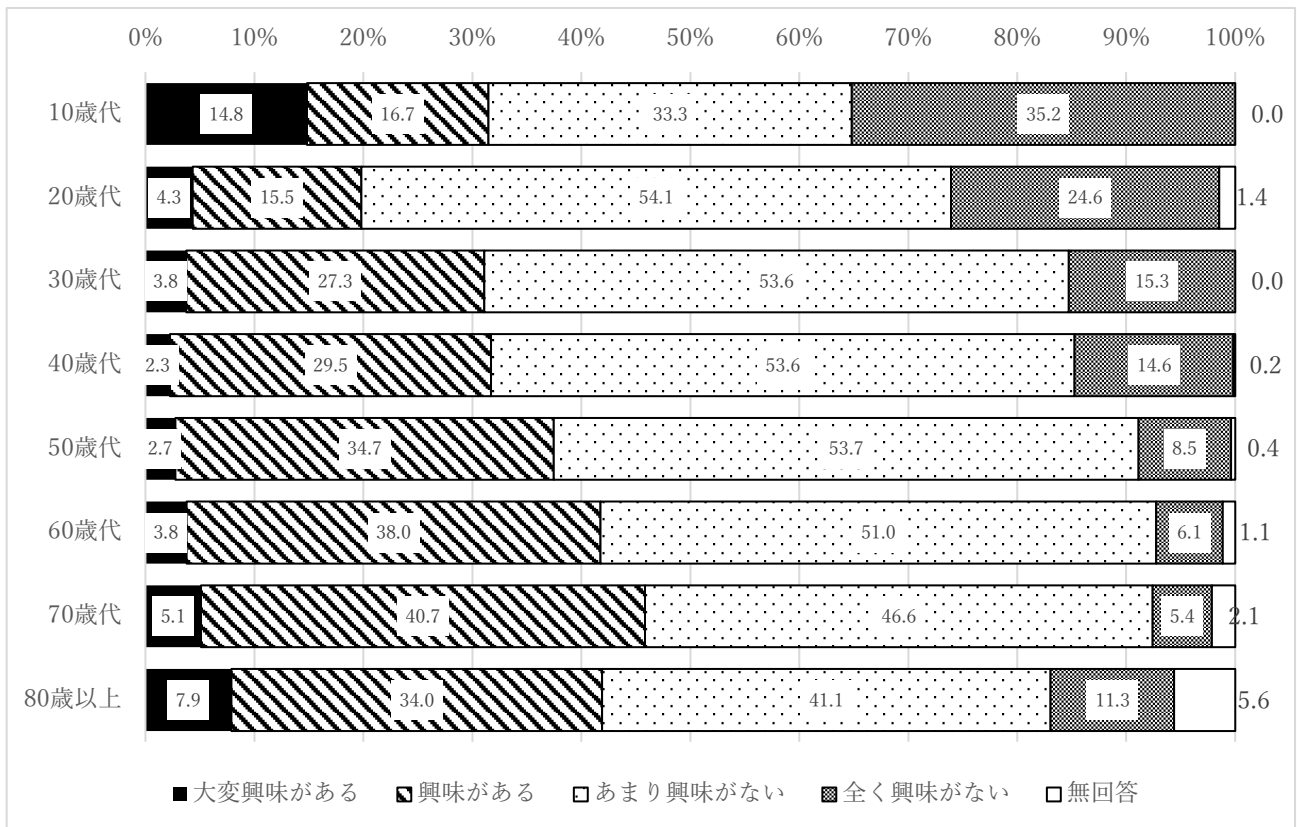
鶴岡市の地域医療に関する情報や市民勉強会への興味についてみると、「あまり興味がない」が 49.2%と最も高く、次いで「興味がある」が 34.4%、「全く興味がない」が 9.8%となっています。

【図 28-1 地域医療に関する興味（性別）】



地域医療に関する興味について、性別でみると、男性と女性での大きな差はありません。

【図 28-2 地域医療に関する興味（年齢別）】



地域医療に関する興味について、年齢別でみると、「大変興味がある」では10歳代が14.8%と最も高くなっています。次に、80歳代が7.9%となっています。最も低い割合は40歳代で2.3%です。

年代が上がるにつれて、「興味がある」の割合が高くなっています。

問 29 鶴岡市の医療に関して望むこと、期待していることなどがございましたら、ご記入ください。

(別紙回答用紙へ自由記載)

(1) 日常の受診に関すること

回答要約	件数
待ち時間の解消	48
通院の交通手段の充実	33
紹介状制度の見直し	30
かかりつけ医の対応、充実	25
オンライン診療の充実	24
適切な診療・治療の実施	22
医療費が高いといった不安	8
薬局、処方に関すること	6
診察予約制の改善	3

(2) 医療機関・医療体制に関すること

回答要約	件数
専門医・専門診療科の充実	67
小児・産婦人科・周産期医療の充実	46
医療体制の充実	37
救急医療体制の充実	34
在宅医療・介護サービスの充実	30
休日夜間診療体制の充実	22
高度な医療の提供	21
医療技術・医療の質の向上	14
医療・多職種連携の推進	13
医療機器の充実	9
がん医療の充実	4
中山間部の医療体制の充実	4

(3) 医療従事者に関すること

回答要約	件数
医療従事者の対応改善	104
医療従事者の不足	76
医療従事者の働く環境の改善	16
医療従事者への感謝	11

(4) 情報の周知・発信について

回答要約	件数
医療機関に関する情報の提供	35
疾病や予防、薬等に関する情報の提供	10
オンライン等における医療情報提供の充実	8
受診等の相談窓口の要望	6
在宅医療・介護に関する情報提供の充実	5
人生会議に関する情報提供や学習の実施	5

(5) その他

回答要約	件数
病院環境や設備	9
健康や予防の取り組みの充実	9
新型コロナウイルスの影響	4
その他	18

III. 調査結果からみた課題

1. 日常の受診について

■まとめ

① 医療機関を選ぶポイント

- ・ 医療機関を選ぶポイントとして6割（60.4%）が「前から診てもらっている医療機関」と答えています。
- ・ 20歳代から50歳代の働き盛りの世代は「自宅、職場、学校などから近い医療機関」の割合が高くなっています。

② 医療機関への交通手段

- ・ 8割以上が「自分で通院（徒歩、自転車、シニアカー、バイク、自家用車などを使用）」と答えています。
- ・ 80歳以上では家族が運転する自家用車やタクシーでの通院が増加しています。

③ かかりつけ医等について

(1) かかりつけ医

- ・ 「かかりつけ医がいる」と答えた方は全体では7割(71.3%)おり、年代別では70歳代では8割(83.9%)、80歳以上では9割(89.9%)となっています。また、10歳代でも約6割(57.4%)と割合が高くなっています。

(2) かかりつけ歯科医

- ・ かかりつけ歯科医については7割（73.2%）の方が「いる」と答えています。
- ・ 20歳代では5割（47.8%）が「いる」と答えており、その他の年代と比べ低い割合となっています。

(3) かかりつけ薬局、かかりつけ薬剤師

- ・ かかりつけ薬局は5割（55.3%）の方が「決めていない」と答えています。
- ・ かかりつけ薬剤師の認知度は2割（22.8%）と低く、かかりつけ薬剤師がいる人は、1割（14.7%）となっています。
- ・ 薬局を選ぶポイントとして「受診した病院や診療所から近い」が8割(83.2%)であり、薬剤師の知識や対応で選択する人は※3割（33%）となっています。
※薬剤師やスタッフの対応が好意的である（17.7%）、薬の効能や副作用などの確認や説明をしてくれる（15.3%）の合計

■課題

①医療機関を選ぶポイント

- ・ 10歳代から20歳代の境目において、医療機関を選ぶポイントやかかりつけ医の有無に差が出てきています。医療機関を自分で選ぶ年代に対する医療機関の情報や病院・診療所のかかり方に関する情報の伝達方法を検討する必要があります。
- ・ 「医療機関を選ぶことが出来ない」「医療機関の情報を得られるところが分からない」などの意見があります。現在は、かかりつけ医の選択や、整形外科や眼科、皮膚科などの専門診療

科を選択する手段として、鶴岡地区医師会 地域医療連携室ほたるや山形県医療情報ネットワークのサイトなどが整備されています。今後は更に、鶴岡市内および山形県の医療機関情報を得る手段を知ってもらう広報を行うことも必要です。

②医療機関への交通手段

- ・ 一人世帯や 80 歳以上の通院手段では「タクシー」の利用が比較的多くなっているものの、路線バスやデマンドタクシーの利用割合が低くなっています。今後、一人暮らしの高齢者世帯や、免許返納者の増加を踏まえ、公共交通業界と連携し医療機関への交通手段の更なる整備が求められます。

③かかりつけ医等について

- ・ 医療機関と連携し、かかりつけ医の定義や考え方を市民にわかりやすく、より丁寧に説明し、理解を広げる必要があります。
- ・ かかりつけ薬局およびかかりつけ薬剤師に関する情報提供の促進と共に、持つことによるメリットを伝える取り組みが必要です。

2. 地域医療の理解と普及について

■まとめ

- ・ 医療機関の機能分担の認知度は、「知っている (43.8%)」と「聞いたことがある (24.9%)」を合わせると、全体で 7 割 (68.7%) となっています。
- ・ 病床機能についても、5 割 (50.1%) が「知っている」と答えています。年代別でも、どの年代も 5 割前後が「知っている」と答えています。
- ・ 初診時選定療養費の認知度は、全体で 5 割 (55.9%) となっており、60 歳代 (60.7%)、70 歳代 (61.0%) では 6 割と高くなっています。しかし、10 歳代 (31.5%)、20 歳代 (44.9%) では 3、4 割となっています。

■課題

- ・ 20 歳代から 50 歳代の働き盛りの世代は、医療機関の機能分担や病床機能の認知度が低い傾向があります。これから医療需要が高くなる世代への啓発を行う必要があります。
- ・ 自由記載の傾向と照らし合わせると、医療機関の機能分担や病床機能については知っているものの、自分が受診、治療する場面となると受け入れられない、納得したくない状況があると読み取れるものもあります。これまで以上にわかりやすく、より丁寧な情報提供の手法を検討する必要があります。

3. 在宅医療・人生会議について

■まとめ

① 在宅医療

- ・ 在宅医療の認知度は5割（49.7%）となっています。「聞いたことがある（34.7%）」と合わせると8割（84.4%）になっています。
- ・ 80歳以上では4割（41.1%）が「知っている」と答えており、他の年齢と比較すると低い割合になっています。

② 人生会議（ACP、アドバンス・ケア・プランニング）

- ・ 8割（76.3%）が人生会議（ACP、アドバンス・ケア・プランニング）について「知らない」と答えています。「知っている」と答えた割合が最も高いのは10歳代でした。
- ・ 人生の最期を迎える場所は「わからない」が4割となっています。世代別に見ると60歳代までは、5割が「わからない」と答えています。70歳以上では「自宅」と答える人の割合が高くなります。

■課題

- ・ 働き盛りの世代にとって、在宅医療や人生会議（ACP、アドバンス・ケア・プランニング）は、親の介護を考え、いざという時に備えることにもつながります。そのため、鶴岡市の在宅医療の現状把握と、自分や家族の最期を迎える準備のために、在宅医療および人生会議の啓発を広く行うことが求められます。
- ・ 自分や家族の人生を、出来る限り希望に沿った形で過すためには、在宅医療と人生会議（ACP）に関する情報の普及が求められます。しかし、健康な世代にとっては興味関心を持ちにくいと思われるため、現在進められている100歳体操をはじめとした健康寿命の延伸にかかるフレイル予防とともに、在宅医療と人生会議（ACP）を伝えるなど、多様な情報の伝達方法について検討することが必要です。
- ・ 人生最期の療養場所として自宅を選択される場合には在宅医療の質の充実、在宅療養の環境整備などを、自宅以外を選択される場合には、介護福祉施設の充実などが必要になります。
- ・ 在宅医療の推進のためには、市民の理解と同様に、在宅医療にかかる訪問サービス（訪問診療、訪問看護、訪問薬剤指導、訪問リハビリテーション、訪問栄養指導等）の供給体制の更なる整備が必要です。

4. 鶴岡市の医療について

■まとめ

- ・ 充実させてほしい医療は、「かかりつけ医や診療所機能（45.7%）」、「救急医療体制（45.7%）」が4割と最も高くなっています。「がん医療体制（34.3%）」、「在宅医療体制（32.8%）」の割合は3割となっています。
- ・ 年齢別に1位をみると、30歳代の子育て世代では「小児・周産期医療体制」、働き盛りの世代の40歳代から60歳代では「救急医療体制」となっています。

- ・ 医療機関情報の入手手段は、20-50 歳代では「インターネットの検索」を選択する割合が高くなっています。70 歳以上では、「周囲の人から情報」の割合が高くなっています。

■課題

- ・ どの世代も、「かかりつけ医や診療所機能」、「救急医療体制」の充実を求めています。医療者の人材不足や高齢化が進む中で、充実に向けた対策が必要とされています。
- ・ 子育て世代には重要な医療体制である小児・周産期医療の対策も同様に進める必要があります。
- ・ 自由記載では、受診時などに医療機関の選択の際に相談できる窓口が必要という意見が寄せられています。鶴岡地区医師会 地域医療連携室ほたるなどの相談対応が出来る窓口をこれまで以上に知っていただくための手段や、公的以外の場への設置の必要性などの検討が必要です。
- ・ 医療機関情報の入手手段では、スマートフォンやパソコンなどの電子機器を利用していない世代への情報提供の方法を考える必要があります。
- ・ インターネットや広報での情報を利用するよりも、周囲の人から医療情報を入手するとの回答がどの年齢でも高くなっています。実際に診察を経験した人の情報は信頼できると考えていると思われます。自分が、診療を必要となった場合に選択ができるように、医療機関の正しい情報をどのような手段で提供していくかを検討する必要があります。
- ・ 医療法における病院等の広告規制があり、ホームページではお知らせできない情報があるため、インターネットの検索では欲しい情報を得られないことが考えられます。このことは市民は知らない人も多いと思われます。そのため、医療関係者が直接市民に伝える場を増やす、また、鶴岡市地域医療市民勉強会「鶴岡まるっと地域医療」をはじめとした学習の場を有効に活用することが必要です。市や病院機関で発行する広報、フリーペーパーや地元新聞社など紙媒体での広報戦略も活用していく必要があります。

5. 地域医療における荘内病院について

■まとめ

- ・ 荘内病院の取り組みでは、「地域医療支援病院であること（78.2%）」、「急性期病院であること（61.6%）」が高い割合で認識されています。
- ・ 「肝臓癌や膵臓癌等の手術を行う学会認定専門医がいること」「婦人科癌の内視鏡手術を行う学会認定専門医がいること」「専門的な漢方治療が受けられること」を知っていると答えた人の割合が、いずれも1割未満になっています。
- ・ 総合的な満足度では、「わからない」を除くと、「やや満足」が3割（26.5%）と最も高い割合となりました。
- ・ 「とても満足（5.4%）」「やや満足（26.5%）」を合わせると31.9%、「やや不満（22.3%）」「とても不満（11.7%）」を合わせると34.0%と、差はわずかです。

■課題

- ・ 荘内病院を受診する際には「かかりつけ医からの紹介状が必要であること」や、「急性期の医療を担う病院であること」を知っている人は多いのですが、自由記載では「以前のように紹介状無しで見て欲しい」といった意見が多くあります。知識として知っていても、医療機関の機能分担や病床機能などの理解も含めた対策が、更に必要です。
- ・ 病院は、受診や入院の経験がない地域住民からは見えにくいものです。病院を更に知ってもらう機会を意識的に増やす必要があります。
- ・ 実際に利用した患者・家族からは「良い評判」「感謝」の言葉が寄せられています。このような良いご意見を活かし、荘内病院を広く知っていただくための検討が必要です。
- ・ 自由記載では「アンケートで初めて知った」「今後、広報などで情報収集します」「どこで情報を得られますか」といった意見が多くあります。すでに、荘内病院で実施している出前講座に加え、病院の取り組みを広く知らせる広報の工夫や手段の更なる推進が必要です。

6. その他

■まとめ

- ・ 鶴岡市の地域医療に関する情報や市民勉強会に「大変興味がある」「興味がある」を合わせると全体で4割（38.9%）となっています。
- ・ 地域医療に関する興味では、「大変興味がある」が10歳代で1割（14.8%）と高い割合となっています。「大変興味がある」「興味がある」を合わせると、70歳代で45.8%となり、年齢別では一番高い割合になっています。
- ・ 自由記載では、医療者不足、専門医療不足の不安や課題に関する意見があります。
- ・ 救急外来での対応や、診察の待ち時間に対する意見が多くあります。

■課題

- ・ 今回のアンケートによって、地域医療や荘内病院などの医療情報を自分は知らなかったという気づきを得たという意見があります。また、「もっと知らせてほしい」という要望も寄せられています。
- ・ 荘内病院を含む、地域の医療資源や在宅医療にかかわる情報を、今後も広く市民に対して伝えるために、多様な形での機会や手段で行う必要があります。
- ・ 鶴岡地域医療市民勉強会「鶴岡まるっと地域医療」や、各病院や医療専門職団体などが開催する公開セミナーとの連動など、地域医療連携の推進だけでなく、医療情報連携に関しても検討が必要です。
- ・ 市民が医療等に関する正しい知識や情報を得る機会を提供する方法を、医療機関と更に連携し検討する必要があります。

IV. 資料

1. アンケート調査票
2. 回答用紙

＜鶴岡市民の皆様へ＞

鶴岡市の地域医療に関するアンケート調査へのご協力をお願い

市民の皆さまには、日頃より市政全般にご理解とご協力をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

本市では、誰もが住み慣れた地域で、自分らしく、安心して暮らし続けることができる地域社会を目指し、「一人ひとりが安心できる地域医療」、「市民と医療者がこころ通い合う地域医療」、「地域住民が守り育てる地域医療」の推進に取り組んでいるところです。

そこで、市民の皆さまに、鶴岡市の地域医療について、普段どのように考えているか、どのような行動をとっているかをお聞きするアンケート調査を実施いたします。

調査結果は、地域医療連携に関する市の施策に活かすとともに、令和4年度から市民・医療者・行政の3者が共に地域医療について学び考える場・機会として実施している「鶴岡市地域医療市民勉強会（P2、P9、P10参照）」の運営に活用します。

アンケート調査の趣旨をご理解いただき、回答にご協力くださいますよう、お願いいたします。

回答期限：令和5年 2月20日（月）

※このアンケート調査は、本市にお住いの18歳以上の方10,000人を無作為に抽出して実施します。

※ご回答は、統計的に処理され、個人が特定されることはありません。

※ご記入いただいた調査票が公表されたり、調査の目的以外に使用することはありません。

令和5年2月

鶴岡市

＜ご回答にあたってのお願い＞

- ① 別紙の回答用紙にご記入いただき、同封の返信用封筒（切手不要）にて返送をお願いします。
- ② 本アンケートにお答えいただくに当たってのおおよその所要時間は15分です。
- ③ 本アンケートは無記名方式です。回答用紙などに名前や住所のご記入は不要です。
- ④ ご回答が難しい設問については、空欄のまま進めてください。
- ⑤ アンケート対象の方が回答を行うのが難しい場合、ご家族の方等から回答の代行をいただければ幸いです。
- ⑥ WEBでの回答も可能です。以下のURLをクリックまたはQRコードから回答フォームへアクセスください。

URL: https://s-kantan.jp/city-tsuruoka-yamagata-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=7547

QRコード：



＜お問い合わせ先＞

鶴岡市 健康福祉部 地域包括ケア推進室

〒997-8601 鶴岡市馬場町9-25

電話：0235-35-1251

FAX：0235-29-5658

メール：hokatsukea@city.tsuruoka.yamagata.jp

鶴岡市地域医療市民アクションプラン【概要版】

R4.3 鶴岡市地域医療を考える市民委員会

1【基本理念】 全世代全対象型の地域包括ケアシステムの推進

世代や属性を問わず誰もが住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らしていける地域社会の実現

2【ありたい姿】 10年後（2031年）の鶴岡市の“地域医療の未来像”

- < 市民一人ひとりが安心できる地域医療 >
- < 市民と医療者がこころ通い合う地域医療 >
- < 地域住民が守り育てる地域医療 >

3【活動の指針】 10年後の鶴岡市の地域医療の未来像に向けた「3つの市民アクション」

地域医療の連携の仕組みを理解しよう

- ・日頃利用している医療、福祉、介護予防やケアについて、連携の仕組みを理解する

自分たちが受けたい医療を考えよう

- ・病気の基礎知識や今後の暮らし方を考え、自分に合った療養生活を選択する

ともに考え、行動する仲間になろう

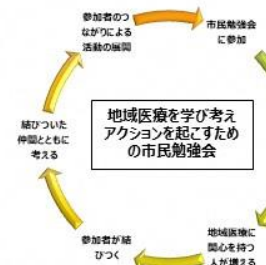
- ・地域医療に関心を持つ人が集い、地域医療を守るために市民が出来ることを考え行動する

4【具体的な取組】 市民アクションの場

<地域医療を学び考えアクションを起こすための市民勉強会>

<コンセプト（基本方針）>

- 市民・医療者・行政と一緒に学び考え実践する
- 鶴岡市の地域医療の現状や課題、仕組みを理解し、解決策を共に考える
- 在宅での療養・看取りを視野に入れた地域包括ケアを理解する
- 地域医療の視点からまちづくり、人づくりを考える



データの活用

5【具体的な取組】 地域医療市民アンケート

【事業内容】

- ・市民の地域医療に関する意識等を調査
- ・市民アクションプラン（市民勉強会等）の取組と運動
- ・市民の地域医療に対する意識や満足度、課題の変化を把握
- ・市民アクションプランの成果を評価

令和4年度 第1回調査

↓ アクション

令和9年度 第2回調査

↓ アクション

令和14年度 第3回調査

鶴岡市地域医療を考える市民委員会（令和元年12月～令和4年3月）では、委員自らが、鶴岡の医療資源や関係機関の連携の現状、課題などを学びながら、市民一人ひとりが地域医療を身近に感じ、守り育て、上手に活用していくためにどうしたらいいか、そしてそれをどのようにして広く市民に浸透させていくかについて議論してきました。

2年4ヶ月、全10回にわたり議論・検討の総まとめとして、令和4年度以降の活動の指針となる「鶴岡市地域医療市民アクションプラン」を策定しました。

具体的な取り組みとして、地域医療を学び考えアクションを起こすための市民勉強会を実施します。

また、この地域医療市民アンケートにつきましても、市民アクションプランに基づき実施するものであり、令和4年度を第1回とし、令和9年度、令和14年度と5年ごとの実施を予定しています。

<鶴岡市地域医療市民勉強会 担当事務局>

株式会社瀬尾医療連携事務所

〒997-0034 鶴岡市本町 1-7-45

まちづくりスタジオ鶴岡 Dada3 階

✉: info@seojimusho.com

【質問票】鶴岡市の地域医療に関するアンケート

別紙の回答用紙にご記入ください。

回答者ご自身のことについて

問1 あなたの年齢を教えてください。

- | | | | |
|---------|---------|---------|----------|
| 1. 10歳代 | 2. 20歳代 | 3. 30歳代 | 4. 40歳代 |
| 5. 50歳代 | 6. 60歳代 | 7. 70歳代 | 8. 80歳以上 |

問2 あなたの性別を教えてください。

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問3 あなたの世帯構成を教えてください。(1つを選択)

- | |
|------------------------|
| 1. ひとり暮らし |
| 2. 夫婦のみ(1世代世帯) |
| 3. 2世代世帯(本人又は本人夫婦と子ども) |
| 4. 2世代世帯(本人又は本人夫婦と親) |
| 5. 3世代世帯(祖父母、親、子どもが同居) |
| 6. その他 |

問4 あなたは現在、どの地域にお住まいですか。(1つを選択)

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 旧鶴岡市1学区～6学区 | 2. 旧鶴岡市1学区～6学区以外 |
| 3. 藤島地域 | 4. 羽黒地域 |
| 5. 櫛引地域 | 6. 朝日地域 |
| 7. 温海地域 | |

問5 あなたは鶴岡市に何年、お住まいでしょうか。(1つを選択)

- | | |
|---------|---------|
| 1. 5年未満 | 2. 5年以上 |
|---------|---------|

日常の受診について

問6 あなたが、風邪やけが、体調不良などの時に受診する場合、医療機関を選ぶ(選んだ)ポイントを教えてください。(あてはまるものすべてを選択)

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. 自宅、職場、学校などから近い | 2. 前から診てもらっている |
| 3. 診療の待ち時間が短い | 4. 医師やスタッフの対応が好意的である |
| 5. 土・日に診療している | 6. 症状にあった専門科・専門医である |
| 7. 市内の総合病院である | 8. 特に理由はない |

問7 あなたの、医療機関への主な通院手段を教えてください。(1つを選択)

1. 自分で通院(徒歩、自転車、シニアカー、バイク、自家用車などを使用)
2. 家族などが運転する自家用車
3. 路線バス
4. タクシー
5. デマンドタクシー
6. 介護タクシーや福祉有償運送など、公的補助を受けた車の利用
7. 受診していない

問8 あなたはかかりつけ医がいますか。(1つを選択)

1. いる
2. いない
3. わからない

●かかりつけ医とは？

かかりつけ医とは「なんでも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要な時には専門医、専門医療機関を紹介でき、身近で頼りになる地域医療、保健、福祉を担う総合的な能力を有する医師」とされています。普段は、体調に関する相談をしながら軽いけがや病気を診てもらい、必要と判断した場合に大病院や専門の医療機関を紹介してもらうといった関わり方が考えられます。

※参考：日本医師会・四病院団体協議会「医療提供体制のあり方」

問9 あなたには、かかりつけ歯科医がいますか。(1つを選択)

1. いる
2. いない
3. わからない

●かかりつけ歯科医とは？

かかりつけ歯科医とは、安全・安心な歯科医療の提供だけでなく医療・介護に係る幅広い知識と見識を備え、地域住民の生涯にわたる口腔機能の維持・向上をめざし、地域医療の一翼を担う者としてその責任をはたすことが出来る歯科医師のことを言います。

※出典：日本歯科医師会「かかりつけ歯科医について(日本歯科医師会の考え方)」

問10 あなたが歯科を受診する場合、歯科医院を選ぶ(選んだ)ポイントを教えてください。(あてはまるものすべてを選択)

1. 自宅、職場、学校から近い
2. 前から診てもらっている
3. 待ち時間が短い
4. 医師やスタッフの対応が好意的である
5. 土・日に診療している
6. 予防のための指導やアドバイスをくれる
7. 専門的な治療ができる(矯正歯科、インプラントなど)
8. 特に理由はない

問 11 あなたは、かかりつけ薬局（1 か所）を決めていますか。（1 つを選択）

1. 決めている 2. 決めていない

●かかりつけ薬局とは

普段からなんでも相談できる、顔なじみの薬剤師がいる「かかりつけ薬局」を一つ決めておくことを、おすすめします。皆さんが使用する薬を一つの薬局でまとめて管理すると、複数の医療機関から同じ薬が処方されていることに気づいたり、相互作用（注意を要する飲み合わせ）が起きるのを防ぐことができるからです。

複数の薬局に行くのではなく、いつでも気軽に相談できる「かかりつけ薬局」を一つ、決めることが提案されています。

※出典：日本薬剤師会「かかりつけ薬剤師・薬局とは？」

問 12 あなたは、かかりつけ薬剤師について知っていますか。（1 つを選択）

1. 知っている 2. 聞いたことがある 3. 知らない

問 13 あなたは、かかりつけ薬剤師を持っていますか。（1 つを選択）

1. 持っている 2. 持っていない 3. わからない

●かかりつけ薬剤師とは？

「かかりつけ薬剤師」とは、薬による治療のこと、健康や介護に関することなどに豊富な知識と経験を持ち、患者さんや生活者のニーズに沿った相談に応じることができる薬剤師のことをいいます。

薬局が空いていない時間にも薬の相談ができ、在宅医療もサポートしてもらえます。かかりつけ薬剤師を持つためには、薬局で説明を受け、書面（同意書等）をかわす必要があります。また、通常の薬剤服用歴管理指導料に代わり、かかりつけ薬剤師指導料という負担があります。

※出典：日本薬剤師会「かかりつけ薬剤師・薬局とは？」

問 14 あなたが、薬局を選ぶ理由を教えてください。（あてはまるものすべて選択）

1. 受診した病院や診療所から近い
2. 自宅や勤務先から近い
3. 待ち時間が短い
4. 薬剤師やスタッフの対応が好意的である
5. 薬の効能や副作用など確認や説明をしてくれる
6. 電子マネーやクレジットカードが使える
7. ドラッグストアが併設されている
8. 特に理由はない

問 15 あなたは、医療機関には役割があり、役割に応じた医療機関を受診することが望ましいことを知っていますか。(1つを選択)

1. 知っている 2. 聞いたことがある 3. 知らない

●医療機関の機能分担について

医療機関には以下の3つの分類があります。

- 一次医療機関…主に地域の診療所が該当します。日常的な病気やけがなどの治療を行い、患者の病状によって他の専門的な医療機関へ紹介します。
- 二次医療機関…病院（三次医療機関を除く。）が該当します。専門性のある外来医療と一般的な入院治療を提供します。
- 三次医療機関…高度で特殊な医療を提供する病院が該当します。脳卒中や心筋梗塞など、二次医療機関では対応できないほどに深刻な病状の患者への対応を行います。山形県では山形大学医学部附属病院と県立中央病院が該当します。

※出典：第7次山形県保健医療計画

問 16 あなたは、病状の状態に応じた医療機関に入院し治療することが望ましいことを知っていますか。(1つを選択)

1. 知っている 2. 聞いたことがある 3. 知らない

●病床（ベッド）機能について

病院には、以下のような病床機能があり、それぞれの役割や対象に応じた患者が異なります。

- 高度急性期機能…急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する機能です。
- 急性期機能…急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能です。
- 回復期機能…急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能です。特に、急性期を経過した脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等の患者に対し、ADL（日常生活動作）の向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供する機能（回復期リハビリテーション機能）です。
- 慢性期機能…長期にわたり療養が必要な患者に医療と介護を提供する機能です。例えば、長期にわたり療養が必要な重度の障がい者（重度の意識障がい者を含む）、筋ジストロフィー患者又は難病患者などが入院する機能です。

※出典：第7次山形県保健医療計画

問 17 医療機関からの紹介状なしで大規模病院を受診した場合には、通常の医療費の他、初診時選定療養費が必要となることを知っていますか。(1つを選択)

1. 知っている 2. 聞いたことがある 3. 知らない

●初診時選定療養費とは？

初診時選定療養費とは、最初の診察は診療所^{※1}や比較的小さな病院^{※2}で行い、高度で専門的な医療が必要な場合は大規模病院で診察を行う、という医療機関の役割の分担を進めるために定められた費用です。診療所や比較的小さな病院からの紹介状なしで大規模病院での診察を行う場合は、健康保険による自己負担額とは別に、初診時選定療養費を自費で支払う必要があります。

※1 診療所…入院できるベッドの数が0～19床の医療機関のこと。

※2 比較的小さな病院…入院できるベッドの数が20～199床の医療機関のこと。

※出典：厚生労働省令和4年度診療報酬改定の概要外来1資料

在宅医療・人生会議について

問 18 あなたは在宅医療について知っていますか。(1つを選択)

1. 知っている 2. 聞いたことがある 3. 知らない

●在宅医療とは？

在宅医療とは、医療や介護に従事する専門職が病院・診療所への通院が困難になった患者に対して、住み慣れた自宅や介護施設などを訪問して行う医療であり、高齢になっても、病気にかかったり障がいがあったりしても本人・家族の希望に応じ、地域で療養生活を営むことを可能にします。

※出典：第7次山形県保健医療計画

問 19 あなたは、人生会議（ACP、アドバンス・ケア・プランニング）という取り組みを知っていますか。(1つを選択)

1. 知っている 2. 聞いたことがある 3. 知らない

●人生会議（ACP アドバンス・ケア・プランニング）とは？

人生会議とは、もしものときのために前もって、あなたが大切にしていることや、どのような医療やケアを望んでいるかについて自ら考え、家族やあなたの信頼する人たちと繰り返し話し合い、共有する取り組みの事です。

※参考：厚生労働省「人生会議」してみませんか

問 20 あなたは、人生の最期はどこで迎えたいですか。(1つを選択)

1. 病院 2. 自宅 3. 施設 4. わからない

問21 あなたは、人生の最期をどこで迎えたいかについて家族やあなたの信頼する人たちと会話をすることはありますか。(1つを選択)

1. よくある 2. たまにある 3. 話したことがない

鶴岡市の医療について

問22 鶴岡市の医療について、今後どのような医療体制を充実させて欲しいと考えているか教えてください。(あてはまるものすべてを選択)

1. かかりつけ医や診療所機能 2. 救急医療体制
3. がん医療体制 4. 小児・周産期医療体制
5. 精神疾患医療体制 6. 在宅医療体制
7. 難病等の医療体制 8. 中山間部の医療体制
9. 高度な急性期医療体制 10. わからない

問23 医療機関の情報を得る手段として普段よく使うものを教えてください。(1つを選択)

1. 看板などの掲示物 2. フリーペーパー(コミュニティ紙など)
3. 医療機関が発行する機関紙 4. 周囲の人からの情報
5. インターネットの検索 6. 鶴岡地区医師会のホームページ
7. 各医療機関のホームページ 8. 山形県医療機関情報ネットワーク
9. 情報を得ようとしたことはない

問24 庄内地域の医療機関では、医療機関同士での円滑な連携やスムーズな情報伝達に役立つ地域医療連携ツールを活用しています。あなたが知っているものを教えてください。(あてはまるものすべてを選択)

1. Net4U(ネットフォーユー) 2. Note4U(ノートフォーユー) 3. ちょうかいネット
4. 地域連携パス 5. すべて知らない

問25 オンライン診療が話題となっていますが、コロナ禍に限らず日ごろからオンライン診療は必要だと思いますか。(1つを選択)

1. 必要である 2. あれば利用したい
3. できれば直接医師に会って診察を受けたい 4. 必要ない
5. わからない

●オンライン診療とは？

スマートフォン・パソコン・タブレットのビデオ通話を通して、インターネット上で患者の診察および診断を行い、診断結果の伝達や処方などの診療行為をリアルタイムに行うことです。

※参考：厚生労働省「オンライン診療の適切な実施に関する指針 平成30年3月(令和4年1月一部改訂)」

地域医療における荘内病院について

問 26 以下の荘内病院の取り組みであなたが知っていることを教えてください。
(あてはまるものにすべてを選択)

1. 救急対応が必要な患者さんや、重症な病気に対する診療や手術を行う「急性期病院」である
2. 受診する場合は、原則かかりつけ医からの紹介状が必要な「地域医療支援病院」である
3. 鶴岡市や三川町地域の救急搬送される患者のほとんどを受け入れている
4. 妊産婦、新生児、小児医療を専門とする、庄内地域で唯一の「周産期母子医療センター」がある
5. 新生児、小児の手術を専門的に行う「小児外科」がある（県内では他に山形大学病院と山形県立中央病院）
6. 肝臓がんや膵臓がんなど、難易度の高い手術を行える、学会が認定した専門医がいる（他に山形大学病院と山形県立中央病院）
7. 婦人科癌の内視鏡手術を行う、学会が認定した専門医がいる（他は山形大学病院のみ）
8. 学会が認定する東洋医学の教育病院であり、専門的な漢方治療が受けられる（他は山形大学病院のみ）
9. 国立がん研究センター東病院（千葉県柏市）と連携し、「がん相談外来」を開設している

問 27 現在の荘内病院に関する総合的な満足度を教えてください。（1つを選択）

- | | | |
|----------|----------|---------|
| 1. とても満足 | 2. やや満足 | 3. やや不満 |
| 4. とても不満 | 5. わからない | |

その他

問 28 鶴岡市の地域医療に関する情報や市民勉強会に興味がありますか。（1つを選択）

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 大変興味がある | 2. 興味がある |
| 3. あまり興味がない | 4. まったく興味がない |

鶴岡まるっと地域医療 ～鶴岡市地域医療市民勉強会～

地域医療をキーワードに

- ・あかちゃんからおじいちゃんおばあちゃんまで「まるっと」
 - ・健康、予防、医療、介護、障害分野まで「まるっと」
 - ・まちづくりや人づくり「まるっと」
 - ・市民、医療者、行政までみんなで「まるっと」
- 学び、考え、仲間がつながり地域医療の理解を広げる勉強会





「鶴岡まるっと地域医療」ってなに？

令和元年～3年に実施した「鶴岡市地域医療を考える市民委員会」で、3つの市民アクションをまとめました。その市民アクションを実践するために市民が地域医療を知り一緒に考える場として「鶴岡市地域医療市民勉強会」を実施することになりました。鶴岡市地域医療市民勉強会の名称が「鶴岡まるっと地域医療」です。

鶴岡市の“地域医療の未来像”に向けた「3つの市民アクション」

地域医療の連携の仕組みを理解しよう

私たちが日ごろから利用している医療や福祉、介護予防やケアについて、その連携の仕組みを理解することで、安心して医療を受けることが出来ます。

自分たちが受けたい医療を考えよう

病気になったことを想定し、病気の基礎知識やその後の暮らし方などを考えることで、自分に合った療養生活を選択できるようになります。

ともに考え、行動する仲間になろう

地域医療に関心を持つ人が集い、交流しながら、地域医療を守るために市民一人ひとりが出来ることを、ともに考え、行動する仲間になろう。

年4～5回の鶴岡市地域医療市民勉強会「鶴岡まるっと地域医療」を実施し、市民・医療者・行政と一緒に学び考える場を実践します。



どうして地域医療を学ばなくちゃいけないの？

鶴岡市では、すべての人が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを安心して続けることができる地域社会の実現に取り組んでいます。

健康で暮らし続けることは、私たちの基本的な願いであり、医療は私たちの生活に密接に関わっています。私たちが自分らしい暮らしを最期まで続けるためには、鶴岡市の医療資源を知ることや自分の健康状態に合わせて医療・介護と上手に付き合うことが大切です。健康なうちに地域の医療資源の情報（役割・強み）を得て、あなたや家族の“備え”にしましょう。

問29 鶴岡市の医療に関して望むこと、期待していることなどがございましたら、ご記入ください。（別紙回答用紙へ自由記載）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

【回答用紙】 鶴岡市の地域医療に関するアンケート

--

回答期限：令和5年 2月20日（月）まで返送くださるようお願いいたします。

別紙の質問票をご覧ください、当てはまる回答に☑チェックを付けてお答えください。

問1	1 □	2 □	3 □	4 □	5 □	6 □	7 □	8 □		
問2	1 □	2 □								
問3	1 □	2 □	3 □	4 □	5 □	6 □				
問4	1 □	2 □	3 □	4 □	5 □	6 □	7 □			
問5	1 □	2 □								
問6	1 □	2 □	3 □	4 □	5 □	6 □	7 □	8 □		
問7	1 □	2 □	3 □	4 □	5 □	6 □	7 □			
問8	1 □	2 □	3 □							
問9	1 □	2 □	3 □							
問10	1 □	2 □	3 □	4 □	5 □	6 □	7 □	8 □		
問11	1 □	2 □								
問12	1 □	2 □	3 □							
問13	1 □	2 □	3 □							
問14	1 □	2 □	3 □	4 □	5 □	6 □	7 □	8 □		
問15	1 □	2 □	3 □							
問16	1 □	2 □	3 □							
問17	1 □	2 □	3 □							
問18	1 □	2 □	3 □							
問19	1 □	2 □	3 □							
問20	1 □	2 □	3 □	4 □						
問21	1 □	2 □	3 □							
問22	1 □	2 □	3 □	4 □	5 □	6 □	7 □	8 □	9 □	10 □
問23	1 □	2 □	3 □	4 □	5 □	6 □	7 □	8 □	9 □	
問24	1 □	2 □	3 □	4 □	5 □					
問25	1 □	2 □	3 □	4 □	5 □					
問26	1 □	2 □	3 □	4 □	5 □	6 □	7 □	8 □	9 □	
問27	1 □	2 □	3 □	4 □	5 □					
問28	1 □	2 □	3 □	4 □						

問29(自由記載)

<p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>

回答漏れがないか、もう一度ご確認ください。

回答用紙は、返信用封筒（切手不要）に入れて返送してください。

ご協力ありがとうございました。

鶴岡市の地域医療に関するアンケート調査
【調査報告書】

発行 鶴岡市 健康福祉部 地域包括ケア推進室
〒997-8601

山形県鶴岡市馬場町9番25号

電話 0235-35-1251

FAX 0235-29-5658
